2010
子どもゆめ基金®
ガイド

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

目次

「子どもゆめ基金」について 1

「子どもゆめ基金」の概要 2

平成22年度　応募・採択状況 4

平成15～21年度　応募・採択状況 6

平成21年度助成活動事例（子どもの体験活動） 7

平成21年度助成活動事例（子どもの読書活動） 28

平成21年度助成活動事例（教材開発・普及活動） 36

普及啓発事業の実例 38

「子どもゆめ基金」への寄附団体 40

「子どもゆめ基金」について

「子どもゆめ基金」は、衆議院・参議院の超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子どもの未来のために有意義な基金の創設を発意し、平成13年4月に創設されたものです。

今日、都市化や少子化、情報化などが進展する中で、社会全体で様々な課題が生じるとともに、子どもたちをめぐる様々な問題は複雑化・多様化してきています。平成24年度に全面実施となる新学習指導要領においても、その改善内容には、体験活動等の充実や、言語活動の充実などが盛り込まれています。

また、体験活動に関する最近の調査（（独）国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」中間報告による）では、「子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多い」（成人調査）、「友だちの多い子どもほど学校好き、憧れる大人のいる子どもほど働くことに意欲的」（青少年調査）など、子どもの頃の体験は、その後の人生に影響することが示唆される結果が出ています。

この基金は、未来を担う夢を持った子どもの健全育成を進めるため、自然に触れ親しむ活動、科学実験などの科学体験活動、異年齢間の交流を促進する活動、絵本の読み聞かせ会などの読書活動といった地域の草の根団体が実施する様々な体験活動や特色ある新たな取り組み、体験活動等の裾野を広げるような活動を中心に、様々な体験活動や読書活動等への支援を行っています。

子どもの体験活動を支援

子どもの読書活動を支援

「子どもゆめ基金」の概要

助成金の交付

助成対象活動

子どもの体験活動の振興を図る活動への助成

活動例

①子どもを対象とする体験活動
- 自然観察、キャンプなどの自然体験活動
- 清掃活動、高齢者介護体験などの社会奉仕体験活動　など

②子どもの体験活動を支援する活動
- 子どもの体験活動の指導者養成　など

子どもの読書活動の振興を図る活動への助成

活動例

①子どもを対象とする読書活動
- 読書会活動、読み聞かせ会　など

②子どもの読書活動を支援する活動
- 子どもの読書活動の振興を図るフォーラムの開催　など

子ども向けソフト教材を開発・普及する活動への助成

活動例
- 子どもの体験活動や読書活動を支援・補完する、インターネット等で利用可能なデジタル教材を開発し、普及する活動

助成対象団体

民法法人、NPO法人など青少年教育に関する事業を行う民間の団体

普及啓発

子どもの体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発（子どもゆめ基金ガイドの作成、子どもゆめ基金PRビデオの作成、普及啓発事業の実施 等）

助成金の額

個別の助成活動に対する助成金の額は、予算の範囲内で、審査委員会の議を経て決定されます。

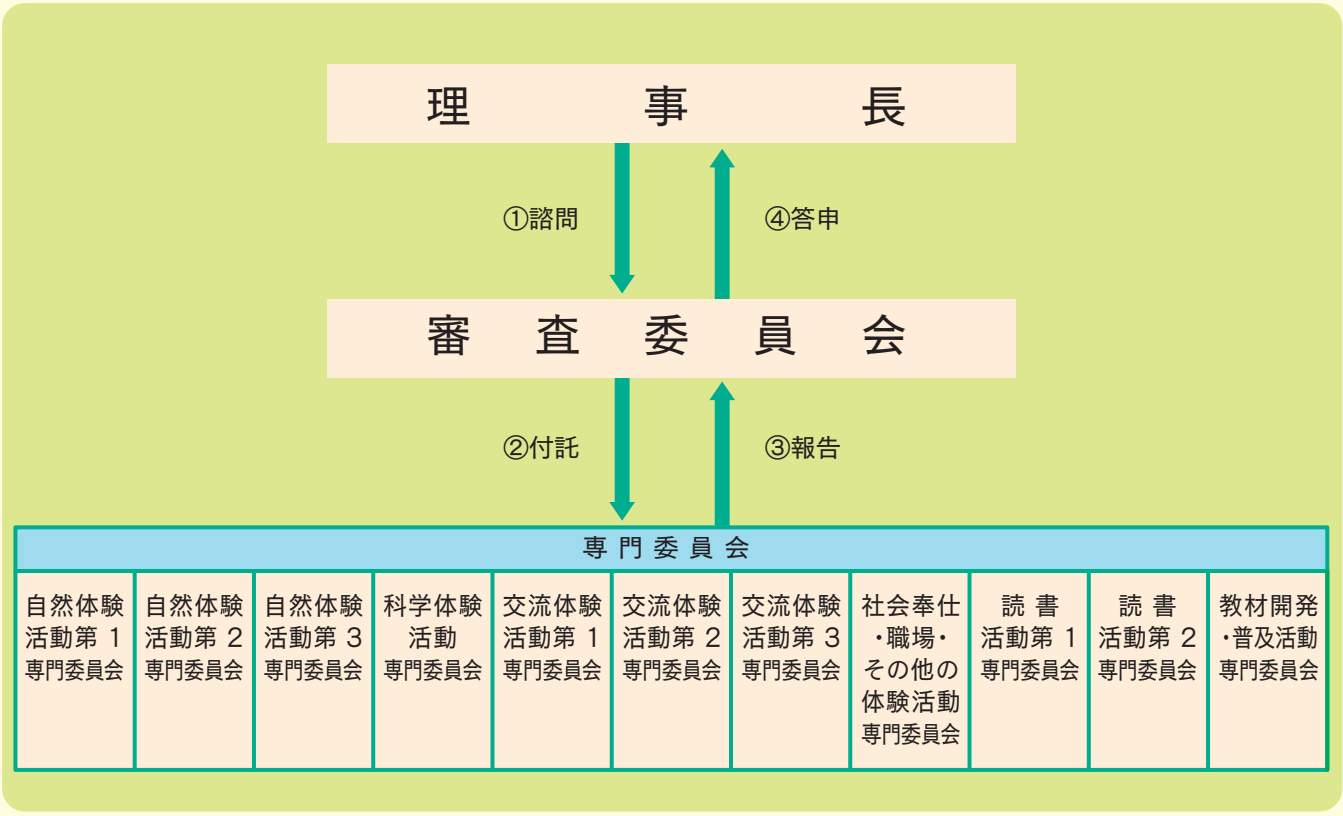
審査方法

子どもゆめ基金における助成対象活動の決定については、子どもゆめ基金による助成金の交付を適正に行うため、自然体験活動や社会奉仕体験活動等の体験活動、読書活動、教材開発などの分野において実務経験を持ち、かつ青少年教育に高い識見を有する委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」を設置し、そのもとに各分野別の実情及び特性を踏まえて審査を行います。

応募のあった活動については、機構理事長から審査委員会へ助成活動の採択について諮問を行い、これを受けて審査委員会から専門委員会へ調査審議の付託を行います。

専門委員会の審査は、各団体から提出のあった助成金計画調書について、各専門委員が専門的見地から評価し、合議により助成対象活動の評定（選定）を行います。

審査委員会では、各専門委員会での審査結果をもとに、採択すべき助成活動及び助成金の額について審議を行い、採択する活動及び助成金額を決定します。



平成22年度　応募・採択状況

活動区分別応募・採択状況

（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,795	1,541	1,108,022
子どもの読書活動	417	369	193,356
教材開発・普及活動	72	31	324,855
合計	2,284	1,941	1,626,233

子どもの体験活動都道府県別応募・採択状況

（単位：千円）

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
北海道	121	106	69,972
青森県	19	15	5,813
岩手県	29	28	15,370
宮城県	22	19	13,424
秋田県	8	8	4,400
山形県	12	8	6,864
福島県	20	16	7,536
茨城県	36	30	15,682
栃木県	34	27	16,505
群馬県	22	18	12,294
埼玉県	56	50	29,280
千葉県	57	47	30,581
東京都	266	234	300,034
神奈川県	53	43	30,774
新潟県	43	38	19,553
富山県	14	11	6,464
石川県	25	24	15,039
福井県	19	19	17,798
山梨県	18	14	13,068
長野県	46	39	34,794
岐阜県	24	22	10,323
静岡県	33	29	22,652
愛知県	52	43	24,235
三重県	15	12	4,577

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
滋賀県	50	43	19,229
京都府	45	35	23,997
大阪府	146	130	73,080
兵庫県	92	75	47,166
奈良県	18	16	7,095
和歌山県	20	18	9,552
鳥取県	5	5	1,532
島根県	7	5	2,708
岡山県	26	22	13,589
広島県	25	19	13,152
山口県	19	16	5,674
徳島県	33	31	14,146
香川県	8	4	1,687
愛媛県	23	18	8,410
高知県	9	7	3,853
福岡県	78	66	38,869
佐賀県	4	4	1,356
長崎県	17	14	8,888
熊本県	27	27	30,235
大分県	12	8	5,428
宮崎県	11	11	6,059
鹿児島県	57	50	32,716
沖縄県	19	17	12,569
合計	1,795	1,541	1,108,022

※応募団体の所在地である都道府県別に集計した件数・金額である。（以下、同じ）

子どもの読書活動都道府県別応募･採択状況

（単位：千円）

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
北海道	21	20	10,551
青森県	4	3	1,542
岩手県	4	4	1,585
宮城県	1	1	2,601
秋田県	7	7	2,457
山形県	1	1	255
福島県	7	6	6,754
茨城県	3	3	855
栃木県	11	9	5,977
群馬県	1	1	254
埼玉県	10	7	3,862
千葉県	9	9	2,059
東京都	54	48	56,720
神奈川県	13	11	2,910
新潟県	9	6	2,630
富山県	3	3	1,884
石川県	3	3	2,056
福井県	3	3	557
山梨県	7	7	1,322
長野県	12	12	3,488
岐阜県	7	6	1,648
静岡県	8	8	3,619
愛知県	7	6	1,494
三重県	5	4	884

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
滋賀県	17	17	6,362
京都府	9	8	2,093
大阪府	37	33	11,631
兵庫県	17	14	5,609
奈良県	6	6	2,566
和歌山県	1	1	956
鳥取県	1	1	1,511
島根県	11	10	6,405
岡山県	4	3	620
広島県	2	1	228
山口県	5	4	4,476
徳島県	6	6	1,534
香川県	7	7	1,709
愛媛県	2	0	0
高知県	3	3	394
福岡県	28	25	8,468
佐賀県	2	1	305
長崎県	6	4	1,371
熊本県	14	11	8,060
大分県	3	3	1,100
宮崎県	11	11	4,202
鹿児島県	11	11	5,287
沖縄県	4	1	505
合　計	417	369	193,356

教材開発･普及活動都道府県別応募･採択状況

（単位：千円）

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
北海道	3	1	10,880
岩手県	1	1	9,775
茨城県	1	0	0
群馬県	1	1	7,532
埼玉県	2	0	0
千葉県	6	1	11,695
東京都	31	19	202,782
神奈川県	4	0	0
新潟県	1	0	0
富山県	1	0	0
長野県	2	1	11,512

都道府県	応募件数	採択件数	交付内定額
岐阜県	5	2	17,397
静岡県	1	0	0
愛知県	1	0	0
京都府	1	1	7,198
大阪府	5	1	10,755
兵庫県	1	1	11,232
島根県	2	1	12,355
愛媛県	1	0	0
大分県	1	0	0
鹿児島県	1	1	11,742
合　計	72	31	324,855

平成15～21年度 応募・採択状況

平成15年度　（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,910	1,723	1,275,061
子どもの読書活動	356	320	170,860
教材開発・普及活動	94	27	247,493
合計	2,360	2,070	1,693,414

平成16年度　（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,837	1,611	1,319,642
子どもの読書活動	351	317	209,506
教材開発・普及活動	94	23	232,335
合計	2,282	1,951	1,761,483

平成17年度　（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,812	1,690	1,419,241
子どもの読書活動	325	299	227,268
教材開発・普及活動	91	27	259,884
合計	2,228	2,016	1,906,393

平成18年度　（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,532	2,022	1,214,730
子どもの読書活動	549	427	192,908
教材開発・普及活動	103	28	230,150
合計	3,184	2,477	1,637,788

平成19年度　（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,441	1,848	1,182,549
子どもの読書活動	523	464	210,771
教材開発・普及活動	112	30	244,544
合計	3,076	2,342	1,637,864

平成20年度　（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,231	1,705	1,159,493
子どもの読書活動	516	450	219,390
教材開発・普及活動	84	28	278,581
合計	2,831	2,183	1,657,464

平成21年度　（単位：千円）

活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,209	1,725	1,156,007
子どもの読書活動	542	464	226,490
教材開発・普及活動	82	29	289,590
合計	2,833	2,218	1,672,087

ひろしま・四季の自然学校

募集対象　自然体験活動ユースボランティア養成講座：高校生・大学生・大人　わくわく探検隊（ふれあい編・チャレンジ編）：小学校3年生～中学校3年生
活動期間　自然体験活動ユースボランティア養成講座：平成21年4月18日～5月10日
わくわく探検隊：平成21年5月24日～7月12日（ふれあい編）　平成21年10月4日～12月13日（チャレンジ編）

実施団体名　ひろしま自然学校・四季の森プロジェクト
連絡先　〒733-0004　広島市西区打越町11-8-207
TEL:082-237-1163　FAX:082-237-8863

活動の概要

子どもの自然体験活動を支援するユースボランティア養成講座を延べ4日間開催し、子どもの自然体験活動に関わるユースボランティアの裾野を広げると共に、ボランティアが良質な自然体験活動を提供する力量を身につける支援を行いました。また、小学校3年生～中学校3年生を対象に、異年齢集団による集団活動や自然体験などを通して自然や他者について理解を深め、自主性、協調性、創造性などを養う目的で、わくわく探検隊という活動を年間6回開催しました。

活動の内容

(1)自然体験活動ユースボランティア養成講座

「基礎編」「技術編」の2回の養成講座をそれぞれ1泊2日で実施しました。基礎編では、自然体験活動の意義、自然体験活動指導技術、安全管理・救急法、子どもとの関わり方（カウンセリング技術）などの項目について講義や実習で学びました。技術編では、フィールドポテンシャル調査実習、プログラムデザイン実習、プログラム指導実習などを行い、プログラムづくりと指導技術の向上に焦点をあてて学びを深めました。さらにステップアップを目指す参加者には、実践の場として、わくわく探検隊という子どもを対象にした自然体験活動の指導に関わってもらえるように配慮しました。

(2)わくわく探検隊

小学校3年生～中学校3年生を対象に、「ふれあい編」「チャレンジ編」というテーマの違うわくわく探検隊をそれぞれ3回シリーズで開催しました。比較的自然体験が少ない子どもでも気軽に参加できるよう、各回を日帰りの活動とし、また、毎回同じフィールドで行うことで、場に対する慣れや季節によるフィールドの変化が実感できやすいように配慮しました。さらに、3回を通じて参加者と指導者（グループカウンセラー）が同じメンバーで活動できるよう班編制を行い、人間関係の深まりやチーム機能が発揮しやすいよう工夫しました。

■ふれあい編：色遊び、ネイチャークラフト、森の探険、森の演劇など、五感を使って自然とふれあうことで豊かな感性と表現力を育むことをねらいにしました。毎回、森の住人（謎の人物）から手紙が届き、その手紙に従ってプログラムを進行するという仕掛けをし、子どもの活動意欲が高まるよう工夫しました。また、マジックスポットという森でのソロ体験を毎回必ず実施し、自然や自分自身とじっくりと向き合う静かな時間を持ちました。

■チャレンジ編：森の探険、カヌー、ツリークライミング、森のオリンピック、森の隠れ家づくりなど、チャレンジ体験を中心にプログラムを構成しました。プログラムデザイン上の特徴としては、個人のチャレンジにとどまらずグループでのチャレンジ体験を組み込むことで、3回を通じてグループがチームになっていくようなステージづくりを工夫し、集団の一体感や良い規範、仲間意識の向上が図られるよう工夫しました。

わくわく探検隊（カヌー）

ユースボランティア養成講座

成果と課題

自然体験活動ユースボランティア養成講座では、参加者の多くが教員養成系の大学生だったこともあり、「将来教師になった際に役立つことが得られた」「学校では学べない実践的な子どもとの関わり方が学べた」などの意見が多く聞かれました。

わくわく探検隊では、「ふれあい編」「チャレンジ編」というタイプの違う2つのプログラムを準備することで、子どもや保護者の多様なニーズに答えることができました。また、実施後の感想では継続実施の希望や宿泊を伴う活動の希望などがあり、自然体験活動の入門としての役割は十分果たせたのではないかと考えます。

今後の課題として、ユースボランティア養成講座では、ボランティアのスキルアップをめざしたフォロー講座の開催、また、わくわく探検隊については、参加児童の保護者との関係性を構築するための「通信」の発行などを検討していきたいと考えています。

ユースボランティア養成講座

団体の概要

NPO法人ひろしま自然学校は、広島県山県郡北広島町のフィールドを拠点に、里山整備活動、子ども、家族、大人などを対象にした自然体験活動の提供、食育プログラムの展開、自然体験や環境教育に係る指導者養成事業などを実施しています。

小石原・行者の森のかよい塾

募集対象　小学校4年生～中学校3年生　**活動期間** 平成21年8月1日～8月12日（11泊12日）

実施団体名　小石原・行者の森のかよい塾実行委員会
連絡先　〒838-0106　福岡県小郡市三沢4174-1
E-mail:k.tatewaka@gmail.com
（連絡はまず、メールでお願いします）

活動の概要

福岡県東峰村を舞台に16人の小中学生が、旧小石原村中学校跡地である喜楽来館を生活のベースとし、農家や小石原焼の窯元へ毎日かよい自分の出来る仕事を見つけ出し取り組み、東峰村に自分の足跡をきっちりと残す。東峰村の人々と触れ合いながら、様々な体験に挑戦しつづけることを通して、人、社会、自然とのつながりに気づくことや、自立、社会力、情熱を培うことをめざすものである。また春休みに挨拶を兼ねて2泊3日のキャンプを行い、夏休みだけのイベントキャンプで終わらない様に、周年で東峰村を訪れ交流を深める。

活動の内容

①開村式・オリエンテーション：参画型学習で12日間を通しての自分なりの目的意識を持たせる。朝夕の食事作り等の生活面での班分け（4人ずつ4班）と午前中の農作業班と合宿所の掃除・洗濯・昼食のお弁当作り班という全体を2つの作業班に分け、作業の効率化を図る。
（初日・2日目）

②小石原の散策（農家・窯元訪問）：自分達でバスに乗ったり、歩いたりして、お世話になる農家と窯元を訪問し挨拶をする。訪問しながら小石原の道（農家・窯元へのルート）をおぼえ明日からのシミュレーションとする。お世話になる窯元で、各自お茶碗を購入し、この活動の期間中使い続ける事で、焼き物への愛着を深め、物を大事にする心を育む。（2日目）

③かよい塾プログラム：午前中は、半数が農作業体験、残り半数は合宿所の掃除・自分達の下着や汚れ物の洗濯・昼食のお弁当の調理等で生活体験。午後は、窯元へかよい（窯元1件1名）職人の業のすごさ、厳しさを体感し、ものづくりの本質にふれる。移動は基本的に路線バスを利用する。また、高学年の子ども達を午前中交代で6日間、森山銘木の森の博物館での店番と掃除に派遣し、職場体験させた。
（3日目～8日目）

④ショートプログラム：東峰村の自然の中での2泊3日のテント泊。沢登りをしたり、川に飛び込んだりする川遊びプログラム。小石原地区の村中を舞台にするポイントラリープログラム。
（9日目～11日目）

⑤交流発表会・閉村式：お世話になった農家や窯元の人達を招待し、子ども達とスタッフで料理した昼食を一緒に囲んで、食事をしてもらいながら12日間の活動について発表。その後、練習してきた劇等を体育館のステージで演じ、各自お礼の気持ちを劇に込める。最後にスタッフと子ども達で閉村式。（12日目）

⑥ナイトプログラム：和太鼓の体験。交流会で披露する、劇の練習。体育館でのレクレーション。

⑦食育プログラム：米・野菜は地元産（地産地消）その他の食材も国産品を使用し、大根の皮をキンピラにと食材を余す所無く使用。全員でいただきます、班単位でご馳走様でしたを慣行。

夕食作り（メニューも自分達で考えます）

農作業

成果と課題

①12日間という長期間、親元を離れ子ども達だけで掃除、洗濯、料理などをこなす事で、仲間と協働して生活する体験ができ、「生活力」「社会力」の向上につながった。

②毎日農家や窯元に通って、仕事を任されたことにより、一人一人が責任と目的を持って自分の生活のリズムをつくり、「自立」の力を培う事ができた。
「自分が役立っている」「自分にもできる」という満足感や達成感を味わい、自己イメージを高める事ができた。

③けがや病気といったアクシデントやホームシックなどの精神疲労、および肉体疲労に耐えながら12日間という長期間、親元を離れ、仲間の助けや励ましを受けながら過ごした事は、大きな自信になり、仲間の大切さ、人と関わる事の心地よさを感じさせる事ができた。

④課題としては次の点があげられる。
- キャンプに参加する子ども達と村の子ども達同士の相互交流の工夫。
- スタッフと村民との交流を深めるため、子ども同様に「かよい塾」をするなど、プログラムやサポートシステムを検討する。
- 長期キャンプのため、高学年の子ども達の社会体育の試合や練習と重なり、参加を断念する子ども達が多く見受けられる。社会体育をしながらでも参加出来るシステム作り。社会体育指導者の体験活動参加への理解を広めていきたい。

川遊び（ショートプログラム）

団体の概要

地元教育委員会・JA・青年団・学校教育関係者・おもちゃ図書館・社会教育指導者をメンバーにして、平成19年度より福岡県内及び近県の子ども達を対象に、自然体験・生活体験・食育を中心にした農作業体験を企画、実施し、子どもの総合的生活力、社会力、自立の育成につとめる。

自然観察・自然工作からはじまる自然体験活動

募集対象　子ども及びその家族　**活動期間** 平成21年4月25日～平成22年3月13日(毎月)

実施団体名　服部緑地ファミリー自然教室
連絡先　〒564-0063　大阪府吹田市江坂町5-5-2
TEL:06-6386-5531　FAX:06-6386-5531
E-mail:tsu-ueda@sutv.zaq.ne.jp

活動の概要

毎月最終土曜日及び服部緑地公園の春秋2回、服部緑地公園を訪れる子どもたちやファミリーを対象に、園内の自然のガイドと自然素材を使った工作が楽しめる自然体験学習会を開催しています。体験活動を通じて自然に接し、自然界の生態系のしくみなどの理解を深め、自然環境に関心を持つ感性豊かな子どもの育成に寄与することが私たちの願いです。

活動の内容

実施時間:
午前9時30分～午後3時

場所:
服部緑地ボランティアセンター
及びその周辺

プログラムの構成:
①園内での植物観察を主体に、クイズ形式で楽しく遊び心を持ちながら、五感を通して自然を学びます。
②月毎に決めたテーマの自然素材(間伐材の樹木片や輪切り・竹・草木の葉・ドングリやマツボックリなどの木の実・種・蔓等)を使った工作を行い、自然物から創造する感動・喜びを味わってもらいます。
③四季折々に合わせてテーマを決め、自然観察と自然工作を組み合わせたカリキュラムを設定しています。

受付風景

平成21年度の月別テーマ:

	［自然観察］	［自然工作］
4月	春の花と新緑	木の輪切り工作
5月	公園の花と樹木	小枝の工作
6月	初夏の花と樹木	草花のしおり
7月	樹木の葉	葉っぱの工作
8月	セミと樹木	竹の水鉄砲
9月	秋の七草	小枝の工作
10月	木の実	木の実の工作
11月	紅葉の不思議	クリスマスリース
12月	落葉樹と常緑樹	ミニ門松
1月	水鳥	ススキの凧
2月	冬の花と冬芽	草の茎の額縁
3月	春の野の花	竹工作
春フェア	春をさがそう	春フェアペンダント
秋フェア	秋をさがそう	秋フェア遊び工作

3月自然観察:花壇でハコベの観察

参加した子どもたちは、樹木や野草に手を触れ、匂いを嗅ぐ等、親子や子ども同士で自然についての会話で盛り上がり、次第に自然に関心を持つようになります。工作ではいつも、子どもたちの豊かな感受性と新鮮な発想に驚かせられますが、作品を完成させたときの喜びの笑顔を見ることが、私たちスタッフのやりがいとなっています。

工作教室での作品製作風景

成果と課題

服部緑地公園の協力を得て、平成14年より継続して活動してきました。子どもゆめ基金からの助成により誰でも無料で参加でき、チラシや活動資料を充実させることができました。今では、地域周辺への認知度が高まり、リピーターも増え、年間1000人以上もの人が参加する人気の活動となりました。

今後は、時節に合う自然観察と自然工作のテーマを一体的に関連付けて取り上げるなど、プログラムの充実を図っていきたいと考えています。また、本活動が単なる体験活動に終わることなく、自然の営みの不思議・素晴らしさに気づき、感動し、自然の大切さを学ぶ場となり、四季折々の彩を与えてくれる植物が多くの哺乳類、鳥、昆虫、菌類などの生命活動を支えていること、樹木が大気中の温室効果ガスCO2の削減 に寄与していることを教えるなどして、地域社会における自然環境保全の重要性の普及啓発に取り組んでいきたいと思います。

7月自然工作:葉っぱの工作

団体の概要

環境系NPO法人のシニア自然大学校には、基礎的な自然環境問題を学習する講座部、講座部修了後の高等科や専門分野で活動する研究部等があり、私たちは、研究部の自然観察・工作科在籍者有志で、日頃は野外自然観察や自然素材を使った工作製作などをしています。子どもたちに自然体験の場を提供し、服部緑地公園の協力を得て地域公益活動をしています。

平成21年度「御五神島（おいつかみしま）・無人島体験事業」
―出会い、発見、ゆめ体験 in 御五神!―

募集対象 小学校5年生～中学校3年生　**活動期間** 平成21年8月1日～8月10日（6泊7日）

実施団体名 特定非営利活動法人　えひめ子どもチャレンジ支援機構
連絡先 〒790-1136　愛媛県松山市上野町甲650
TEL:080-1995-8006　FAX:089-960-1900
URL:http://island.geocities.jp/kodomochallenge/

活動の概要

本事業は愛媛県内の小学校5年生～中学校3年生を対象として、異年齢、男女混合のグループで、9泊10日（無人島での6泊7日を含む）の長期宿泊体験活動を行いました。宇和海に浮かぶ御五神島（無人島）を舞台に、「不足・不便・不自由」な環境の中で共同生活を送ることを通して、子どもたちに「生きる力」を育むことを目的にしています。

活動の内容

2日目までは島に入る準備として、班活動を中心に初めて出会ったメンバーが協力してテントを立てたり、ロープワークの練習をしたり、竹食器を作ったりします。

3日目から、御五神島での生活が始まりです。照りつける真夏の太陽の下、全員で力を合わせて3隻の船から満載のキャンプ資材を荷揚げし、テントやタープを設営しました。

御五神島では午前5時起床、午後8時就寝の生活を送りますが、慣れるまではその時間の大半を食事作りに費やされました。かまど作りや、薪割りやマッチを使って火をつけることなど、不足・不便・不自由な環境での食事つくりに悪戦苦闘していましたが、やがて、要領を得て生活を楽しむようになっていきます。

食事の準備

井戸水で体を洗う

自然に親しむシュノーケリングのプログラムでは、海中を泳ぐ美しい熱帯魚たちの様子を観察しましたが、それらが、本来四国の海にいる魚種ではなく、海水温の上昇に起因することを知ったり、海外からの漂流物の観察をしたり、漂流物でオブジェを作ったりするプログラムを通して、環境への関心や問題意識が高まりました。

また、子どもたちが御五神島から送った「家族への手紙」では、無人島生活の大変さや家族などについての想いを素直につづっていました。

7日目は、本事業の目玉の自給自足的生活です。この日は、3食に必要な食材は自分たちの手で確保すること、手に入れた食材はリーダーに確認すること、必ず火を通して食べることを守って過ごします。子どもたちは、海から貝やカニ、ウニやホゴなど、陸ではバッタや木の芽など、手に入った量の食材と小麦粉で食事を作り、多くても少なくてもグループで分け合って食べます。食べることだけに全精力を費やした一日でしたが、「不足・不便・不自由」の「3不の生活」の意味を実感したと思います。

シュノーケリング

無人島最後の夜、小雨の振る中でのキャンプファイヤーも、大いに盛り上がり子どもたちの記憶に焼き付けられたと思います。

9日目に離島し、現実の生活に戻るべく、道具の片付けと、無人島での体験を振返り、最終日には全員が真っ黒に日焼けした元気な姿を家族に見せることができました。

自給自足の日

成果と課題

仲間とともに全員が無事に御五神島での「不足」「不便」「不自由」な生活を乗り越えた子ども達は、達成感や成就感に満ち溢れ、この経験は、これからの生活の中で大きな自信となるに違いありません。

課題としては、今後も子どもたちに、豊かな体験を提供し、たくましく生きる力を育てていくため、活動をサポートする安定的なスタッフと資金の確保が必要です。

団体の概要

平成18年に「三つのショク=食・職・触」に係わる子どもたちの自主的なチャレンジを支援するために、自ら事業を企画、推進すると共に、他団体との連携、共済や人的支援等を行うべく、県内の大学関係者、教職員、PTA、公民館関係者、民間団体の有志が結成した。当事業以外にも「みんなでチャレンジみんなのチャレンジ」や、互いのネットワークを広げる「地域教育実践交流集会」の開催等も実施しています。

自閉症児・者サマーキャンプIN胎内2009

募集対象　小学校4年生以上の自閉症と診断されている子ども　**活動期間** 平成21年7月12日～9月12日

実施団体名　長岡自閉症親の会
連絡先　〒940-0844　新潟県長岡市大町2-3-12
TEL：0258-34-4362　FAX:0258-34-4362

活動の概要

このキャンプは、学校の自然教室や宿泊学習では達成感を得ることができない自閉症の子どもたちに、大自然の中でそれぞれの興味や個性に合わせた活動を提供し、子どもたちの興味・経験を広げます。また親元を離れ、非日常の環境と人間関係の中で、コミュニケーション能力や生活スキルを高め自立を目指します。自閉症についての知識のない学生をボランティアスタッフとして迎え、子どもたちと一緒に活動することで、自閉症や支援についての理解を広げ、ボランティアリーダーを育てます。

活動の内容

①ボランティア研修キャンプ（6月13・14日）
組織的キャンプ実施のための活動の実践と自閉症の基礎知識・子どもの支援を学ぶ

②事前交流会（7月12日）
子どもとボランティアの顔合わせ・保護者と情報交換・模擬活動・ミーティング

③キャンプ（8月7・8・9日）
海水浴・アスレチック・キャンプファイヤー・オリエンテーリング・おやつ作り・水遊び・Tシャツ染め・虫取り・すいか割り・キャンドル作り・プレート作り・野外炊飯など様々な野外活動

④思い出会（9月12日）
子どもたちとキャンプを振り返る・保護者への報告・反省会

成果と課題

今回も子どもたちは普段見せてくれない素晴らしい笑顔と、自主的な行動をたくさん見せてくれました。グループ活動と個別活動を組み合わせたことで、子どもに自由でのびのび活動できる機会と安心感を与え、活動の充実と安全を確保できました。毎年参加の子どもは、グループの仲間を意識して「待つ」「してあげる」などの行動が見られ、相手を認め関わりたい気持ちが育ってきたことが分かります。初めて参加の子どもたちも先輩たちとの集団の力の中で、初めてと思えないくらいに適応できました。最後まで

講義の様子

つどい・みんなで踊ろう

海水浴は楽しい！

カートンドッグ作って食べました

でやり通す達成感は自信となり、家や学校での自主的な行動に繋がっています。

今年集まったボランティアはリピーターが少なく、例年のように縦割りで組織作りをすることが難しいと思われたものの、講師・指導員によるミーティングを重ねることでチームワークが生まれ、安全なキャンプを実施できました。

今後の課題としては、活動のマンネリ化です。安全・安心なキャンプの実施のためにはチームワークは必要不可欠であり、短期間でチームをまとめるためにはキャンプをイメージしやすいように研修とキャンプを同じ会場で実施すること、また子どもたちの障害特性を考慮して、同時期・同会場でのキャンプを実施してきたことによると考えています。今後、新しい活動をどのように取り入れるかを検討していきたいと思います。

子どもの様子を保護者へ報告

団体の概要

私たちの会は、自閉症児者の親がピア（仲間）・カウンセリングの中で、障害をもつ子どもたちの子育てと自立を考えます。子どもたちが生き生きと楽しく参加しながら自立につながる活動を計画・実施、そこに一般の人たちからボランティアとして参加協力してもらうことで、自閉症の理解を広めることに努めています。

どんぐり冒険隊2009

募集対象　5歳～小学生までの子どもとその保護者　**活動期間** 平成22年1月16日

実施団体名　特定非営利活動法人どんころ野外学校
連絡先　〒079-2551　北海道空知郡南富良野町落合1074
TEL:0167－53－2171　FAX:0167-53-2171
E-mail:donkoro@jeans.ocn.ne.jp　URL:http://www1.ocn.ne.jp/~donkoro/

活動の概要

平成21年度においては、小学生を対象に夏、冬の冒険キャンプを行い、夏はロープワークを駆使したツリーハウスを製作し、冬は雪洞を掘って宿泊するなど、アウトドア技術を学びながら、自然の中で生きる知恵を伝えてきました。

親子プログラムにおいては、初夏は、山中の浅い川で箱メガネを片手に魚を捕まえる川遊びや、晩夏には日陰などに根付いた幼い木を移植し、キャンプ場の一部を森に返す森づくりを行い、秋には繁忙期の農家の収穫を手伝い、そして、厳冬期にはスノーシューで森に入り、動物の足跡を追う、といった親子で自然の中でのびのびと遊び、喜びや驚きを親子で共有できる内容を取り込んでいます。

活動の内容

■親子アウトドアプログラム
1月の活動　ふゆのもりへいこう

①森に行く前に

まず、プログラムは装備の準備から始まります。長時間、氷点下の野外で遊ぶためのウェアリング方法、スノーシューの扱い方。どれひとつ欠けてしまっても、北海道の冬の森を楽しむことはできません。
そして、この森に実際にいるシカ、リス、クマなどの動物たちの足跡クイズを写真パネルで行い、森への探険気分を盛り上げます。

②森で

パウダースノーが降り積もった森は、大人にとっても子どもにとっても自由空間であることを体験します。走れば応えるように雪が舞い散り、うっかり転んでも痛みはなく、高い崖からも一気にすべり降りることができます。雪がかぶさった倒木の上をリスの丸木橋の様にわたり、銀箔の雪原に自由自在に線路を作り、汽車になって走ります。親子で笑い、全身を使って遊びます。そして、ガイドから、動物の足跡や食痕、寒さに耐える木々の冬芽などの説明を受けると、今遊んでいるこの森が生きていることを実感するのです。

③おやつづくり

山小屋のまきストーブで暖をとり、お弁当を済ませた後は、再び外に出て森にちなんだおやつをつくります。カエデの樹液であるメイプルシロップを煮たてて、手でたたいて平らにした雪の上にそっと流し、固まってきたところを割りばしで巻き取ると、琥珀色のキャンディーができあがるのです。みな夢中になって雪まじりの甘い味を楽しみます。

④修了式

親子アウトドアプログラムの最後の活動日にあたる1月は、修了式でおわります。参加者に一年間、家族と友だちとわかちあった体験を振り返り、修了証をうけとります。
そしてすべての活動に参加できた子どもたちへ、ボウケン王の称号が与えられます。

一本橋に挑戦

ガイドから冬芽の説明を聞く

成果と課題

北海道の山林はとても深く、気軽に足を踏み入れることが危険であるとの認識により、厳しい冬の寒さなどの自然環境に加え、外であそぶことから子どもたちを遠ざけてしまっている家庭が多いのが地域の現状です。しかし、森の中でのびのびと全身で遊ぶ親子での体験は、ともに笑い、ともに驚く共感の場を生み、また、童心に戻って遊ぶ親の姿や、思いもよらなかったことに興味を持つ子どもたちなど、お互いに新たな発見ができる場でもあります。これらのプログラムを通じて、自然の中でできること、楽しいこと、危ないこととその対処法を具体的に伝えることで、自然の中で遊ぶことの理解が徐々に広まりつつあります。

今後も様々な形で自然体験のプログラムの提供を続け、数十年前にあった光景のように、いつか野山を自由に駆け回って遊ぶ子どもたちの姿が見られることを、願っています。

シロップがキャンディーになった

団体の概要

どんぐり冒険隊は、特定非営利活動法人どんころ野外学校の青少年野外教育活動事業のひとつとして、平成18年に開始され、自然豊かな南富良野町周辺を舞台に四季それぞれのアウトドア体験を提供し、自然への興味を持つきっかけづくりをし、野外で遊ぶ「そとあそび」の方法と面白さを伝えています。

多摩川自然体験活動

募集対象　小学校3年生～中学校2年生、(保護者)　**活動期間** 平成21年5月23日～平成22年3月6日

実施団体名　青梅・多摩川水辺のフォーラム
連絡先　〒198-0036　東京都青梅市河辺町1-805-1-207
TEL:0428-22-0980　FAX:0428-22-0980
E-mail:mezase@nifty.com

活動の概要

青梅市は、人口密集地域・東京圏を貫通する全長138kmの多摩川の上流に位置します(河口から60km地点)。自然体験活動では、急流からの安全性確保等のため、21年度からは、子どもの参加に保護者が同伴するよう徹底しました。また、厳選した講師陣(9名)も植物観察と草木染、冬の野鳥観察と芋を焼く野外活動のように活動を組み合わせるなど変化をつけました。

活動の内容

野外の自然体験活動3つについてご紹介しましょう。

圏央道がトンネル抜けて多摩川をまたぐ上流に、国(国交省)が指定する生態系保持空間であり当会の野外活動の舞台・河辺川原があります。

■植物観察と草木染
(平成21年5月23日実施)

植物観察に小学生とその保護者が参加しました。上田講師の解説・指導を受けながら、草木染の塩野講師と木の葉、茎など採集し白地の布を染め上げました。美しい染めが自然の植物から出来上がるという子どもたちの驚きの体験は一生失われることはないでしょう。

■なんでも観察会
(平成21年10月17日実施)

野鳥、昆虫、植物、多摩川石・・・NACS-J自然観察指導員・上田講師は、子どもたちに優しく笑顔で説明され、子どもたちの人気者となりました。この活動は、リピーターが増えだしてきており、子どもたちの反応に手ごたえを感じています。

■野鳥と遊んで焼いもを楽しむ集い
(平成22年3月6日実施)

木の葉が落ちて野鳥が観察しやすい冬の多摩川河川敷を選んで実施しています。カワセミ、ヤマセミが東京都内で観察することができる、大変珍しい場所です。寒さに、頬、手がかじかむ中、焼いもをつくりました。ガスや電気しか知らない子ども達。木が燃えて炭になり芋が灰のなかで焼ける体験は貴重です。100名程度の参加者がある人気事業です。

10.3.6多摩川フォーラム野鳥観察

09.5.30多摩川草木染め

オオイヌノフグリ2010

成果と課題

■成果:

野外の自然体験活動では、生態系保持空間である河辺川原を活かしきった活動が、感動を子どもや保護者の五感に叩き込んだのです。これが第一の成果でした。講師を二段構えにし(植物観察と草木染のように)、親子ペアを原則とした工夫が、この成果を一層高めたようです。また、2回行った指導者養成講座では、水辺の楽校制度の基礎講座を土台にし、水環境講義のあとで水質検査・実験をやったこと、多彩な講師によるデイスカッションを実施したことが、指導者予備軍の関心を高める成果につながりました。

■課題:

私たちは、恵まれた自然に甘んじ、ただ遠くから傍観するだけの多摩川にしてはいないだろうか。20代～40代の若者や親子は、ただバーベキューをし、CDを鳴らし、ゴミを散らかして帰ってしまうのではないだろうか。ウグイ、カジカ蛙、トンボ、カワセミがいて、カワラノギクが咲いている。このような素晴らしい自然があと10m先に進めば、展開している川原なのに。多摩川の自然を再生させ、多摩川に子どもたちの歓声を取り戻そう!これが私達の切実で大きな課題なのです。

団体の概要

設立後満4年の生まれたての団体です。会員数約80名となり、当面、「青梅子どもの水辺協議会」の創設を目指しています。平成21年度は、自然体験活動、環境指導者養成活動、水と子どもの文化活動(写真コンテストとオーディオコンサート)の3部門で年間15事業を実施しました。このような総合的事業展開を行っており、教育関係者、行政の評価を高めつつあります。

平井川こどもの水辺・自然かんさつ仲間

募集対象　幼児から中学生の男女　**活動期間** 平成21年4月19日～平成22年3月7日（毎月1回）

実施団体名　川原で遊ぼう会
連絡先　〒197-0802　東京都あきる野市草花3012-20
TEL:042-559-8281　FAX:042-559-8281
E-mail:kawarade@nifty.com

活動の概要

平井川は、東京の中でも里の川の趣が残り、自然環境の豊かな河川です。川幅がせまく、川遊びにはもってこいの川で、この地域に住む昔の子どもたちにとっては一番の遊び場でした。しかし、近年平井川で遊ぶ子どもたちの姿はほとんど見られなくなってしまいました。そこで、地域の子どもたちに平井川の魅力を伝え、川で遊ぶ「川ガキ」を復活させようと始めたのがこの活動です。活動としては、「自然かんさつ仲間」というタイトルで、平井川をフィールドに年間を通して毎月1回、日曜日の午前中に自然観察会や川遊び等季節に応じたプログラムを実施しました。

活動の内容

■川遊びの醍醐味を体験する

川遊びの楽しさは、なんと言っても魚をはじめとする川の生き物を捕ること、そして川の流れの中で遊ぶことです。そのため5月から8月までは毎月川の中に入って活動しています。中でも人気のあるのが通称「ガサガサ」です。川岸の草の根元に潜む魚やエビをガサガサと足で追い出し、網を使って捕ります。採集した生き物は種類ごとに分けて観察し、それぞれの特徴や生態について学んでいます。「ハヤ釣り」の活動では、地域の元「川ガキ」を案内人に、浮きも錘もつけず竹竿・針・糸だけで釣る昔ながらのシンプルな釣りに挑戦します。夏休みの時期には、「筏で川下り」をおこなっています。地元に生える竹と縄を材料に、川原で子どもと大人が一緒に筏を作り、川下りを楽しみます。

■自然とのつながりを体験する

昔の「川ガキ」は、川遊びの合間に桑の実や野イチゴを摘んで食べ、イタドリをかじっておやつ代わりにしていました。そうした自然とのつながりを体験するために、川原の野草を食べる活動もおこなっています。カンゾウ（甘草）、ノビル、ハコベなどを川原で摘み、その場で調理して試食します。また、川原の野草を使って草木染めをする活動なども取り入れています。

■身近な生き物を深く見つめる

今も昔も子どもたちは生き物が大好きです。しかし、現代の子どもたちは実際に生き物に触れる機会が極端に減ってしまいました。身近な自然である平井川の生き物にもほとんど接することがありません。そこで、トンボ、バッタ、クモ、野鳥などテーマを決めて平井川に生息する生き物の観察を積極的におこなっています。テーマごとに詳しい専門家を「案内人」として招聘し、身近にいる生き物の興味深い暮らしについて学んでいます。

■ふるさとの川の自然を守る

平井川で遊び・学ぶ活動に加え、平井川の自然を守るための活動も取り入れています。平井川の川原には、東京都の絶滅危惧種に指定されているカヤネズミが生息しています。その生息環境であるカヤ原を保全するためにクズの根っこの駆除活動をおこなっている他、川の清掃活動も取り入れています。

成果と課題

平井川を遊歩道や橋の上から眺めるだけではなく、川に入って水の冷たさを感じ、川の深さや流れの強さを体験すること、川に棲む生き物に触れ、観察すること。さらに、それを一度だけではなく繰り返し体験することで、少しずつ「川ガキ」たちが育ってきています。最初はおそるおそる川に入り、生き物に触れることをためらっていた子どもたちが、今ではバシャバシャと先を争うように川に入り、「ガサガサ」での生き物採集も手慣れたものになりました。

今後の課題は、点として育ってきた「川ガキ」たち一人一人を繋ぎ、面としての広がりへと発展させていくことです。

「ハヤ釣りに挑戦」
まずは、釣りの餌にする川虫を捕って針に付けるのに一苦労

「野草摘み」
食べられる野草（ヤブカンゾウ）を川原で摘んでいるところ

「魚の観察」
ガサガサで採集した魚を種類ごとに説明

「筏作り」
竹を縄で縛り、筏を作っているところ。

団体の概要

川原で遊ぼう会は、平井川が自然豊かで子どもたちの安心して遊べる川になることを願って活動している団体です。毎月、平井川をフィールドに自然観察会を開催している他、平井川流域に生息する生物の自然環境調査、平井川を紹介するパンフレットの作成、河川環境保全のための行政への提案などをおこなっています。

銀河学校2010

募集対象　高校生(新1年生を含む)　**活動期間** 平成22年3月28日～3月31日(3泊4日)

実施団体名　銀河学校実行委員会
連絡先　〒397-0101　長野県木曽郡木曽町三岳10762-30
TEL: 0264-52-3360　FAX:0264-52-3361
URL:http://www.ioa.s.u-tokyo.ac.jp/kisohp/OUTREACH/GS/index.html

活動の概要

銀河学校2010は全国の高校生34名が東京大学木曽観測所(天文台)に集まり3泊4日の日程で開催されました。木曽観測所は長野県南部の標高1120メートルの山頂にあります。口径105cmのシュミット天体望遠鏡があり、普段は全国の天文学者に利用されています。

銀河学校2010では、参加した高校生がこの望遠鏡と天体観測用のCCDカメラを使って天体の画像を撮影し、研究者の指導のもとデータの解析を行い、そこに見られる天文学的現象を科学的に考えます。

活動の内容

■1日目

13:40にJR木曽福島駅に集合し、バスで木曽観測所に向かいます。到着後、望遠鏡を見学します。明るいうちに見ることで、望遠鏡の大きさを実感し、実地でそのしくみを学びます。その後、教室にもどり、3つの班に分かれ実習を開始します。各班で研究テーマは異なり、今回は「宇宙の雪だるま、彗星の進化を探れ」、「ポラリスフレアー天の川の巨大フレア構造を探れー」、「銀河系の姿を探れ」でした。3つのテーマはあらかじめ郵送で生徒に伝えられ、希望調査をもとにグループ分けされます。夕食後、グループ毎にテーマにしたがい観測を行います。

■2日目

前日にとった天体画像データを解析し、結果を考察します。前日に十分な観測データを取ることができなかったグループは、あらかじめスタッフの手で撮られた予備観測データもあわせて使います。天体観測実習は天候に左右されがちなので、その影響をできるだけ少なくする工夫をしています。

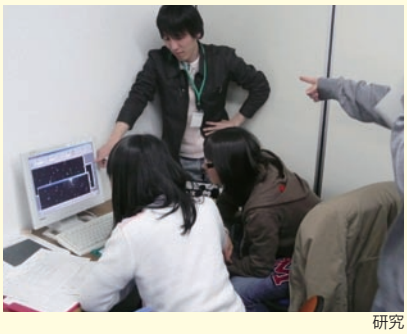
■3日目

午後3時から発表会を行います。人に説明するには研究内容を深く理解し自分の言葉で話す必要があること、話す方も質問する方も自分の考えを人に伝えるためには難しさを伴うこと、などを実感します。発表後の休憩のあと、交歓をかねた夕食会が行われます。ここでは、同じグループ内の生徒や講師との活発な交流だけでなく、他のグループの人たちとも活発に交流を深めます。

■4日目

まとめの講演会が行われ、最後に銀河学校の卒業証書がわたされます。その後、バスで観測所を出発し、13時ごろ駅で解散となります。

望遠鏡見学


研究

成果と課題

銀河学校では、大学で天文学の道を目指す生徒を積極的に求めているわけではありません。実際、天文学以外の理学系、工学系、経済学系、医学系、農学系などを目指している生徒がたくさん参加しました。

主催者としては、このようにバラエティ豊かな生徒に参加してもらうことで、天文学を含む科学全体のよき理解者を多く育てることにも重点をおいています。木曽観測所の暗い夜空で見られる満天の星空を体験することで、暗い夜空をまもるといった、環境に対する意識を持ってもらいたいとも考えています。

参加した生徒のなかには、実習後も銀河学校での研究を続ける人もいます。そして、さらに発展した成果を日本天文学会ジュニアセッションで発表します。天文学会で、より多くの全国の高校生や、海外からの参加者と交流を深め、科学に対する興味をより強くしているようです。

教育活動は継続して行うことで、少しずつ着実に成果があらわれるものと考えます。継続的な活動が行われるよう、活動資金を継続的に調達していくことが、今後の課題です。

団体の概要

東京大学木曽観測所の退職者や職員などが中心となって活動しています。銀河学校の活動のほかにも、学会、研究会、アウトリーチ活動などを通じて高校生や、高校の教員の方々に銀河学校の広報活動を行っています。その成果もあり、全国各地から30名程度の参加者を維持しています。また、参加した生徒が、さらに研究を進める際の指導も行っています。

理科好き応援企画
「空を飛ぶって不思議―飛行機のなぞ」

募集対象　小学生とその保護者　**活動期間** 平成21年7月18日、7月23日

実施団体名　特定非営利活動法人　子育て応援隊むぎぐみ
連絡先　〒330-0061　埼玉県さいたま市浦和区常盤9-19-10-1F
TEL：048-835-5873
URL:http://www.mugigumi.or.jp/index.html

活動の概要

本事業は、子どもたちが好むテーマを題材に、理科分野に関する体験活動と講義を通して、子どもたちの自然科学への意欲や興味を高める機会を提供していこうという理念の下、平成21年度で第3回目の開催を迎えました。

今回は子どもゆめ基金助成活動として、「空を飛ぶってふしぎ―飛行機のなぞ」というテーマの体験的な学習を行いました。網屋慎哉氏と森下直路氏を講師として、7月18日に浦和コミュニティセンターで実験と講義、7月23日には全日空羽田機体メンテナンスセンター見学を実施しました。総勢63名の親子にご参加いただき、盛況の中、終了することができました。

活動の内容

【7月18日(土)講義・実験】

まずは講師の網屋先生からの「飛行機が飛べるわけ」の講演をいただきました。そしてお話を踏まえた、紙飛行機作り・竹トンボ作りです。たった今講義していただいたばかりの、空を飛ぶ仕組みを利用して作った紙飛行機の飛距離にみんなびっくり。大人も思わず歓声を上げていました。

昼食後、最初は「空を飛ぶものあれこれ」というテーマでの講義です。ロケットや気球など、さまざまな仕組みを詳しくお話しいただき、講義後には実際に空を飛ぶものの仕組みを実験で学習しました。「扇風機をもちいた、風による板の動きの実験」「翼の模型による風の進路の実験」「空気砲の実験」等6種類の実験を通して、体験的に「いろいろな『空を飛ぶ仕組み』」を学びました。

いろいろな「空をとぶ仕組み」のお勉強

紙飛行機の飛距離にみんなびっくり

【7月23日(木)
全日空機体メンテナンスセンター】

1日の始まりは、バスの中で講師の先生方からのお話です。飛行機にまつわる講義と18日の実験についての質疑応答です。子どもたちの顔はこれから見学する空港への期待で輝いていました。まず空港第2ビル展望デッキでの見学です。一見同じように見える飛行機も実はその性能や特徴に大きな違いがあります。

昼食を食べた後、全日空機体メンテナンスセンターへ移動しました。普段は見ることのできない飛行機整備の裏側、飛行機での空の旅をしっかりと支える技術の数々に、大人も子どもも、言葉を失うほどの感動を覚えました。私たちが安全に、快適に飛行機の旅をするためになされている数々の努力や苦労を直接伺えた大変貴重な機会でした。

活動後のアンケートでは、「子ども達にも大人にもわかりやすく説明してくれたのでよかったです。(小二女子保護者)」「せんぷうきの風を板にあてた実験がおもしろかった。(小二男子)」という声や、講義・実験・見学の全体を通して非常に好意的な意見、参考となる意見をいただきました。

飛行機にまつわる講義

成果と課題

理科離れが進んでいると言われている現代において、机上だけではなく、実験・体験・見学などを通した体感的かつ直観的な学習機会を展開できたことは非常に有意義でした。

課題としては、現在まで本事業において様々な見学・体験機会の設定を行っていますが、参加者のアンケートや子どもたちの活動中の声から理科に対する興味や探究心が多岐に渡ることから学習の領域をさらに広げていく必要があると実感しました。今後は、魅力的・先見的な事業協力団体を開拓し、子どもたちに一層充実した「理科的体験」提供していきたいと考えています。

全日空羽田機体メンテナンスセンター見学

団体の概要

本団体は「田んぼの教室」「理科好き応援企画」等の親子参加企画の開催や、障がいを持った子でも自由に参加できるコンサートの運営などを通して、地域の子育て支援を行っております。併せて、発達障がい等により学習等に苦手さを抱える子ども達への専門的指導や、不登校などの問題に関する心理相談事業も行っております。

子ども夢サイエンスツアー2009
（ワークショップ IN 和歌山）

募集対象　小学生　**活動期間** 平成22年1月24日

実施団体名　特定非営利活動法人エコテクみらい研究所
連絡先　〒104-0032　東京都中央区八丁堀3丁目17-6　群成舎八丁堀ビル6階プラスエム内
TEL:03-6222-5250　FAX:03-6222-4823
E-mail:info@plus-m.co.jp

活動の概要

小学校の新学習指導要領(理科)の中で取り上げられている手回し発電機を、自分たちで組み立てそれを使ってさまざまな実験を行いました。ワークショップでは、理科に興味を持たせることに主眼を置き、そのために次の二つのことを重視しました。

1)子どもたち自身が手を動かしながら試行錯誤することができる、体験(工作)の時間を出来るだけ多く作りました。

2)講師が、子どもたち一人ひとりと会話しながら、理科の不思議さやおもしろさに気がつくようきめの細かい指導を心がけました。

活動の内容

手回し発電機を使った小学校の授業では、電気はつくりだしたり蓄えたりすることができること、光・熱・音などに変えることができること、電熱器の発電はその太さによって変わること、身の回りには電気の性質や働きを利用した道具があることなどを学びます。

今回の実験では、使った手回し発電機は組み立て式のキット。特に小学校低学年生には、むずかしい工程もありましたが、アドバイスを受けながら一人ひとり子どもたちが自分で組み立てました。

自分で組み立てることを通して、モーターや発電機のことなど、エネルギーのことをたくさん学ぶことができました。工作の手助けをしながら講師が子どもたちの間を回り、電気の性質や利用の仕方などをわかりやすく話しました。また、子どもたちは発電機の手作りをしながら、ていねいに作ってやさしくあつかうことで長く使えることも学びました。

完成した手回し発電機では、発光ダイオードを点灯させたりプロペラを回したほか、模型の自動車を走らせたりしました。

参加者は地元の小学1年生から6年生26人。指導に当たったのは、講師3名、補助講師8名。ほかに保護者の参観が16名あり、教室が一体となったワークショップとなり、子どもたちが目を輝かせた120分でした。

教室は楽しい雰囲気につつまれました

理科が好きになるようわかりやすく説明

はじめのうちはちょっと緊張する場面も

むずかしい工作も助け合って仕上げます

成果と課題

今回の教室では、手回し発電機により電気の性質など電気についての知識を習得することではなく、理科に興味を持たせることに主眼を置きました。そのためにできるだけ工作の時間を多く取りましたが、その時間を利用して、工作の手助けをしながら講師が子どもたちの間を回り、電気の性質や利用の仕方などを興味深く話すことができました。このことで、電気の性質などが理解できない低学年の子どもたちにも、理科のおもしろさを実感してもらえたと思います。

ただ、マンツーマンに近いきめ細かな指導をするためには、子どもたちの受け入れ人数に限りがありますので、こうした教室を多数回、各地で開催することが重要と思われます。専門知識がなくても手伝ってもらっている補助講師のボランティア協力の輪が大きく広がることに期待します。

話かけながらきめ細かく指導

団体の概要

次世代を担う子どもたちに対する、科学や科学技術教育，環境教育，エネルギー教育、情報教育、また、安全教育に関する調査研究・創造・普及についての事業も行っています。子どもたちや学校に関わる数々の教育イベント運営や企画立案を行うとともに、サイエンスショー、科学実験教室の企画運営も手がけています。

第9回体験活動プログラム「環境と水」

募集対象　小学生(保護者同伴)、中学生、高校生　**活動期間** 平成21年8月1日、8月2日

実施団体名　岩手大学「環境と水」研究者グループ
連絡先　〒020-8550　岩手県盛岡市上田3丁目　岩手大学農学部内
TEL:019-621-6222　FAX:019-621-6107

活動の概要

21世紀を担う子どもたちと一緒に環境と密接に関係している身近な河川、池、排水溝などの水に注目し大学内施設を利用した理科実験と外部講師の講演を通して環境保全の大切さを考えるため、2001年より理科実験等を行う体験活動プログラムを実施している。

ミジンコの説明(消化器)

活動の内容

■水の大腸菌検査

水中には色々な菌がいる。各自持参した水を細菌検査用寒天培地で培養し、培養・発育した菌数を調べるとともに、菌の大きさ, 形, 多さを顕微鏡で観察した。

■生活排水のCOD検査

各自持参した身近な生活廃水(米のとぎ汁や風呂の廃水など)に含まれる有機物の量を調べるため、酸素要求量(COD)の簡易測定を行った。

■身近な化学物質の生物への影響

殺虫剤などの身近な化学物質を各種濃度でエビやミジンコに加え、その毒性を観察した。

■各種洗剤のミジンコ、エビへの影響

家庭で使用している洗剤と廃油石鹸それぞれをミジンコやエビの入ったビーカーへ入れ, どの洗剤が悪影響を与えるのかを確かめた。

■環境にやさしい天ぷら廃油石鹸作り

ペットボトルに入った廃油に苛性ソーダ液を加えて、よく混ぜ、固まり始めたら牛乳パック等の型に流して固形石鹸を作った。廃油石鹸は、台所用洗剤に比べ環境にやさしく、食器等もきれいにした。

■顕微鏡による水中微小生物(プランクトン等)の観察

水の浄化に微小生物が役立っている。大学構内の池の水にいる色々な形, 大きさをした微小生物(プランクトン)を顕微鏡で観察した。

■合成洗剤の魚類への影響(講演)

合成洗剤の多用が近海の水質汚濁の原因となっていること、更には水生生物、特に貝類、魚類などの幼生、稚魚にも影響を与えることについての講義を受ける。合成洗剤をやめ、石鹸の使用が推奨された。

■発展途上国の環境問題と子どもたち(講演)

発展途上国で進行している森林破壊、干ばつ、水問題をテーマとした講義では、これらの国では日本にはない水問題による不衛生で多数の子どもが5歳までに死亡しており、貧困、水運びなどに子どもが関与していることも学んだ。

大学構内の池からプランクトン採取

水中細菌の顕微鏡観察

エビへの殺虫剤投与

成果と課題

参加した子どもたちは、水の細菌検査で大腸菌の公衆学的意義を知るとともに、家庭から出る米のとぎ汁がCOD測定で高い値が出ること、持参したシャンプーや食器用洗剤がミジンコなどに害を与えること、水中微小生物が水の浄化に寄与していること、日頃の便利な生活が環境に負荷をかけていること、発展途上国では水不足や汚染が大問題化していることを学んだ。

また、これらの問題解決には科学的に考え、判断し、実行することが大切であることも学んでいる。子どもたちの学習成果は、家庭、地域からの理解を得ることに寄与しており、父兄の参加により親子で水の大切さを再認識することができた。今回の募集にあたっては、各学校に募集要項を送付したところ、学校以外からの情報を得て参加した者が多かった。

本活動は、平成22年度文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)を受賞した。

団体の概要

2001年以来、子どもゆめ基金の助成を受け、社会貢献、生涯教育に関心の高い農学部、工学部、教育学部、人文社会科学部の教員が各自の専門を担当して理科実験、講演を行い、環境保全を考える体験環境教育を実施してきた。本活動以外には学校等からの講演、廃油石鹸作り等の講師派遣の要請に協力している。

TIFA国際子どもキャンプ2009

募集対象　小学校4年生～中学校3年生　**活動期間** 平成21年8月5日～8月7日(2泊3日)

実施団体名　特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか
連絡先　〒560-0022　大阪府豊中市北桜塚4-7-17-109
TEL:06-6840-1014　FAX:06-6840-1014
E-mail:tifa99@nifty.ne.jp　URL:http://homepage1.nifty.com/tifa/

活動の概要

これからの社会を担う世代は、世界の人たちと知り合い、互いに理解を深め、国際的な視野でものを考える必要に迫られています。このキャンプでは、地域在住の外国人(主に留学生)と2泊3日寝食をともにし、言葉・遊び・音楽・料理・スポーツなどを通して、異なる文化と出会うことの楽しさを小中学生に体感してもらいます。

今回で3回目となりましたが、「また来年も参加したい!」という子どもたちや外国人も増え、夏休みの恒例行事として地域に根付きつつあります。(会場:豊中市立青少年自然の家「わっぱる」)

挨拶や言葉のお勉強

活動の内容

<どこの国のグループかな?>

80人の子どもたちを、学年のバランスよくA～Eの5グループに分け、各グループに外国人リーダー2～3人が入りました。今回のリーダーの国籍は、中国・ルーマニア・ペルー・ドイツ・グアテマラ・ベトナム・インドネシア・ブルガリア・アゼルバイジャン・タイです。

<スポーツやゲームを楽しもう>

初めて顔を合わせた子どもたちは少々緊張気味。自己紹介のあと、リーダーと一緒に体を使って遊びます。サッカーや虫採りをしたり、初めてのゲームを教えてもらったり。昼食の頃には皆すっかり打ち解けて、にぎやかな笑い声が響いていました。

<リーダーの国のことを教えて>

1日目の午後から、グループに別かれてリーダーの母国の文化を学びます。パワーポイントの写真を見て「わ～きれい!」「おいしそう!」簡単な挨拶や数を覚えたり、歌をいっしょに歌ったり。知らなかった国が、急に身近な存在になります。

<いろんな国の料理にチャレンジ>

2日目のお昼には、リーダーの母国の料理をみんなで作って試食しました。今回のメニューは、ペルーのじゃがいも料理、ベトナムの鶏肉入りおかゆ、アゼルバイジャンのなす料理など。野菜を刻むところから百人分の配膳まで、みんなで手分けしてやりとげました。味はもちろんサイコー!

<お国自慢大会>

外国の文化や言葉を学び体験する一環として、リーダーから歌やダンスを習い、2日目夜の「お国自慢大会」で披露しました。それぞれのグループで練習を重ね、チームワークもバッチリ。スタッフの飛び入りステージやペルー民族音楽のミニコンサートもあり、盛りだくさんのプログラムとなりました。最後には全員手をつないで輪になって踊り、最高に盛り上がりました。

その他にも、夜のきもだめしや最終日のオリエンテーリングなど、自然の中でのプログラムも行い、3日間のプログラムを無事終了しました。

ベトナム料理を教えてもらっているところ

成果と課題

参加者の中には、自分の意思ではなく親に勧められて来たという子どももおり、はじめはグループに入らず遠くから眺めていたりしますが、包容力のある外国人リーダーや年上の子どもたちから声をかけられ、未知の文化に興味を持ちはじめ、徐々に活動に参加しはじめます。そのような子どもたちから最後に「楽しかった、来年も参加したい!」という声を聞くと、スタッフも疲れが吹き飛びます。

小学4年生から中学3年生という対象年齢の広さは、兄弟のような縦割りのよい面もありますが、年齢層に応じたプログラムを提供しにくいことが課題です。2010年度は中学生対象のレベルアップしたプログラムを組むなど、新しい企画も取り入れる予定です。(これからも子どもたちにグローバルな視野を提供できる活動として継続していきたいと考えています。)

フィナーレでみんなで輪になって踊っているところ

団体の概要

国際交流の会とよなか(TIFA)は、だれもが生きやすい多文化共生社会をめざして、1985年に市民有志によって設立されました。地域に根ざした身近な国際交流や国際理解推進、在住外国人支援、途上国の女性や子どもを支援する活動などをすすめています。次世代育成のための国際理解教育も重要な活動の一つです。

通学合宿「大瀬っ子のひとりでできるもん」

募集対象　小学校4年生～6年生　**活動期間** 平成21年9月2日～9月5日（3泊4日）

実施団体名　大瀬エコセミナー実行委員会
連絡先　〒791-3361　愛媛県喜多郡内子町大瀬中央4601番地
TEL:893-47-0102　FAX:0893-47-0122

活動の概要

通学合宿は、子どもたちが共同生活を送り、共に生活作業を体験することで家庭の大切さを確認し、思いやり、協調性、自主性、倫理観などを育み、心豊かな仲間、リーダーづくりを狙いとしている。また併せて地域住民との交流活動を通して、郷土愛を育むことも目的としている。

子どもたちは、この通学合宿で買い物から掃除・洗濯、調理など、生活に必要な事柄すべてを自らの力で行うこととしている。地域の人による指導、サポートは約30名となり、子どもたちの活動を助けている。

座禅：背筋を伸ばして

活動の内容

通学合宿は、参加する児童の通う大瀬小学校の直ぐ近くにある「大瀬の館」という宿泊施設を拠点とし、児童たちが通学合宿に親しみが沸くよう「○○村」という名称を付けている。〈平成21年度は、参加者が男子のみとなったため「男子村」と命名した。〉

■1日目

通学合宿の最初の行事は開村式である。開村式の後は児童同士で話し合いを行い、4日間の役割分担を決める。役割が決まったところで、それぞれ夕食準備の買い物に出かけたり、洗濯をしたりと忙しく活動しなければならない。夕食の調理には地元の自治会女性部のサポートが付くが調理は児童たちで行った。夕食後は片付けを行い、今度は近くのお寺まで歩いて座禅を行う。和尚さんにたしなめられたり、褒められたりして暫しの苦行に耐える。座禅から帰ると、子どもたちは2～3人ずつに分かれ、事前にお願いをしていた近くの家へもらい風呂に行った。宿泊所の部屋に戻ってからは、それぞれ勉強を行い22時30分には自主的に消灯・就寝となる。

■2日目

ラジオ体操から食事の準備作業をして朝食。朝食後はそれぞれ準備をして、みんな一緒に小学校へ歩いて行く。夕方16時頃には児童たちが宿泊所に帰って来て、宿泊所近くの清掃奉仕作業を行い、昨日と同じく夕食や洗濯などを行う。この日の夜は、児童たちを町内の温泉施設で入浴した。温泉から帰ると地元の読み聞かせボランティアの方々によって、読み聞かせを行った。

■3日目

夜は、環境教育として自然観察員の方のご協力を得て自然観察会（ナイト・ウォーキング）を行った。自然観察会の後は、通学合宿で一番人気のあるドラム缶風呂に入る。2基のドラム缶風呂に大騒ぎしながら交代で入浴した。

■4日目

石窯を使ったピザづくり。生地づくりからトッピングまで子どもたちが行い、PTAのOBの方が石窯で焼いてくれた。昼食のピザを食べ終えたら、感想文を書き閉村式となる。

シワを広げて干してネ

成果と課題

児童たちの、4日間という短い期間の中で、たくさんの体験をしたことを楽しみ満足をしているということが感想文にも書かれている。また、掃除、洗濯、食事など日常の作業を通して親の苦労が理解できたと書いている児童もある。通学合宿の中では児童たちの連帯感も生まれ、目的は十分達成できたと考える。

これまで8回実施してきたが、山間の過疎地の小学校ということもあり、今後の参加者の減少が懸念される。また、これから先の実施のための財源についても憂慮している。何よりも、内容が固定化している傾向があるので、郷土に愛着を持つ子どもを育てるため、より多くの地域の人たちとの交流の機会を増やすなどの見直しをすることが一番の課題である。

ポテトサラダを作ってます

団体の概要

主に大瀬地区の子どもたちを対象に、自然体験活動や地域との交流事業、環境学習など年間を通して10回程度実施している団体。地域の子どもたちの学びを育てることと健全な成長に貢献していきたいと思っている。

障害のある子もない子も一緒に創る
ミュージカル体験活動2009

募集対象　小中学生、高校生、青年、一般　**活動期間** 平成21年7月19日～11月8日（4か月間毎週）

実施団体名　特定非営利活動法人いちかわ市民文化ネットワーク
連絡先　〒272-0823　千葉県市川市東菅野5-8-21-201
TEL:047-339-7809　FAX:047-339-7810
E-mail:ichi_bun_net@yahoo.co.jp　URL:http://ichibun.net/

活動の概要

チャレンジド・ミュージカルは障害児(者)とその家族が、健常児(者)や一般市民と一緒になって、オリジナル・ミュージカルを創造体験する活動です。障害者家族の社会参加を促し、異世代の友だちの輪を広げ、舞台表現活動を通して達成感と自己肯定感を共有することで、ともに明るく楽しく暮らす社会を築くことを目的にしています。

2005年の初演以来、毎年一回開催して、子ども70名、大人30名、ボランティア・サポーター30名、市民と専門家スタッフ50名など、平均200名近い参加で、市川市と千葉市内で3～4回公演を実施しています。

活動の内容

活動のねらいは、障害のあるなしに関係なく「みんなで一緒に楽しむ」ことです。みんながチャレンジド（挑戦者）です。4ケ月間、毎週1回、計20回余の稽古体験を重ねて、公演へとつなげていきます。歌唱、振付、演出とそれぞれ指導者がおり、その日によって体験プログラムも違ってきます。一日の始めはまず挨拶から始まり、ストレッチ、発声練習後はグループごとに分かれてお芝居やダンスのプログラムへと入っていきます。そして、挨拶で一日が終わります。このプログラムを通して障害児(者)と健常児(者)の交流が深まり、舞台表現の楽しさを知った人たちは決して途中でやめようとしません。参加を希望する人も増えて、年々規模は拡大し作品の質も向上しています。

成果と課題

成果として挙げられる事は、人間的な成長が著しいことです。子どもも大人も豊かな人間性を身につけていきます。バタバタと走り回ることしかしない、お部屋に入ってくることができない、保護者から離れる事が出来ない等、初めは色々な問題があります。しかし、大丈夫なんです。何の心配もないのです。何故なら20回の体験プログラムを通して、指導者やスタッフ特にボランティア・サポーターとして参加してくる青年たちとの信頼関係において必ず最終目標である舞台に立つことができるのです。また、この青年たちも子どもたち同様色々な問題にぶつかりながら悩み、解決し成長していくのも特徴の一つと言えます。また、継続的な活動を通して、地域の文化系団体と福祉系団体の大きな協力ネットワークが誕生したことです。「面白い活動は、人を街を元気にする」というモットーが着実に実現しています。

私たちはあくまでも舞台表現を楽しみながら、一歩ずつ新しい表現課題にチャレンジしていきます。そのためには限定された稽古体験活動以外に日常的な基礎訓練の場を求められていますが、少しずつ活動を広げています。

もっとも、活動が発展するにつけて、経費も増大してきました。毎回の赤字決算に悩まされています。市民や企業への支援依頼を一層強めていかねばなりません。

将来的には、障害者を核としたチャレンジド・ミュージカル劇団、三世代市民が日常的に舞台表現を楽しむ市民舞台芸術学校、そして、すべての市民芸術活動を支援する市民芸術センターを創設して、創造と交流の輪を世界中に拡げたいと思います。市民芸術文化交流の拡大こそが真の世界平和を実現する最も有効な手段だと信じこれらの活動を行っています。

衣しょうはすべて手作り！

ミュージカルのけいこ

団体の概要

すべての人々に対して、子どもからお年寄りまでの三世代交流の精神のもとに、市民による自主的な文化芸術活動に関する事業を行い、創造的で文化的な地域社会づくりに寄与することを目的としてミュージカル上演事業、舞台スタッフ養成講座をはじめ、ワークショップ、人材養成、関連事業を行っています。

未来にかける夢　1000年プロジェクト

募集対象　中学生、高校生、大学生、一般　**活動期間** 平成21年7月28日～7月30日（2泊3日）

実施団体名　E4・いよプレス実行委員会
連絡先　E4・いよプレス実行委員会事務局（ウェルピア伊予内）
TEL:089-983-4500　FAX:089-983-5729

活動の概要

都会に住む子どもたちと、田舎に住む子どもたちが、里山や漁村で農漁業体験を行ったり、地域産業を学んだりすることで交流を図る。

都会からの子どもたちには、都会に向けて食糧供給している地方が過疎化、高齢化により困窮している現実や、便利な都市生活を支えている世の中の仕組みについて知ってもらう機会が必要である。田舎の子どもたちには、普段自分たちが当り前に生活している自然環境や食べ物、習慣などが、都会の子ども達の眼には新鮮に映ることを知ることで地域の多様性や価値観の違いを認識し、自らの故郷に誇りとアイデンティティを感じてもらうことにより、将来の地域を背負って立つリーダーとして育成することを目的とする。

活動の内容

7月28日～30日に行ったサマープログラムでは、地元はもとより関東地方からの中学生、高校生と一般参加者の合計50人が集まり、2泊3日の日程で交流体験学習を行った。

■1日目

オープニングセレモニーでは、「環境にやさしい食生活への取り組みについて」「未来にかける夢／国づくり、地域づくり」の2つのテーマで基調講演をしていただいたところ、フィールドワーク参加者以外にも70人を超える公聴希望者が来場した。

■2日目

海の道、山の道の2つのコースに分かれて体験活動を実施した。

海の道では、伊予市の特産品である「削り節」の製造工程について、伝統的な家内手工業で行っている製造所と、オートメーション化された近代的な工場との比較を行ったり、漁業組合で活魚のせり見学等をした後、漁協女性部のみなさんから漁師料理の手ほどきを受けながら、現在漁業従事者が直面している課題について話を伺った。

一方、山の道では、中山間部の過疎地域での農業体験を通じて、農業の大変さや収穫の喜びを体験したのち、農家の天敵であるイノシシの肉を食べながら、過疎化や高齢化により農業従事者が置かれている現状と今後の課題について話を伺った。

最終日

3日間の総括の日としてそれぞれのコースの体験活動の報告会により情報共有をした後、出席者全員で将来に向けて持続可能な地域社会の発展と可能性、今後の課題などについて討議した後、伊予市長に対して、今回の活動を通して得た提言を行った。

基調講演

海コース

山の道

成果と課題

イソップ寓話で有名な都会のネズミと田舎のネズミの例にもあるように、人はみなそれぞれの価値観の中で生きている。今回の活動を通して、どちらが優れているわけではなく、どちらも誇るべき生き方であり、また遠くに住んでいてまったく関わりが無いように思える人々が、実は強く影響しあって生きているということを知ってもらえたと感じている。

こうした活動を今後も続けていくことで、自らの地域のことはもとより、世の中を広く多角的な視点で見ることのできる将来のリーダーを育成していきたいと思う。

課題としては、①遠隔地との交流には費用が嵩み、資金確保が課題となる。②活動を進める上で、現地スタッフの確保も難しい。今後は、地域大学等との連携を強化し費用の掛からない、現地スタッフの発掘・育成を含めた活動を強化していきたい。

団体の概要

E4・いよプレス実行委員会は、子どもたちが農漁村体験・自然観察・文化交流などを通じ、自然・文化・社会の多様性、共生を知り、学びを通し社会の様々な課題解決に、主体的、創造的に取り組む未来のリーダーを育成することで持続可能な地域社会の仕組みづくりに貢献することを目指している。

まちがぼくらのあそび場だ!!

募集対象　小学1年生～6年生　**活動期間** 平成21年6月14日～平成22年1月17日

実施団体名　あそび環境Museumポケット･ポケット
連絡先　〒860-0821　熊本市本山1丁目6-9
TEL：096-356-0741　FAX:096-356-0780
E-mail:pocket@kumageki.jp

活動の概要

熊本市内の2か所を拠点とし、子どもたち自身が身体を使い、心をたくさん動かして遊ぶ「表現あそび」を、1拠点各5回、2カ月おきに行った。そこに集った子どもたちは、あそびを通して、感じたことや“こうしたらどうかな?”という提案を出し合い、仲間としての絆を深めながら共にあそびをつくりだす。人と関わり合い、たくさん想像力を働かせ、自分らしく表現し、相手や物に思いを馳せることを通して、豊かな人間性や社会性を育んでいく。

活動の内容

各回スタッフ4～5人が担当し、子どもたち(小学校1年生～6年生20人前後)であそぶ。毎回のあそびにはテーマがあり、①「あいうえお探検隊」･②「森の忍者伝説」･③「秋の運動会」･④「まちの宝探し」･⑤「まちの秘密を探る」を設定した。

毎回、テーマのあそびに入る前には、五感を使ったあそびやチームが一つになるようなあそびで身体と心を開放していく。その日のあそびのテーマは決めてはいるものの、あそびの中身を創り発展させていくのは、子どもたち同士やスタッフも交えてのやりとりである。

例えば、「まちの宝探し」では、チームの自分たちの“宝”を探すとき、誰かが用意した宝を探すのではなく、それぞれが公園の中を隅々までよく見て回り、「あ!見て!」というとチームの仲間が寄っていき、「おもしろい!」「いいね!」と言い合ってチームのごとの“宝”を見つけていく。

＜あそびの例＞

2回目「森の忍者伝説」では、熊本城下の近くの丘に行き、その周辺で「忍者がいたかもしれない場所」を探す。そこで忍者たちはどんな修行をしていたのか、どんなふうに暮らしていたのか、かわら版をつくり身体で表現し、それを他のチームと交換する。

･大きな木の深い窪
「きっと追われたときに隠れる場所だ!」

･道の途中の大きな池は
「ここは忍者の学校だったんだ!(水団の術)」

etc･･･

普通なら見過ごしてしまうような場所に“ストーリー”が生まれ、参加者の中に不思議と「忍者伝説」が芽生えてくる。それが真実かどうかよりも、みんなで創造した忍者の姿を見せ合い、「ほんとだー!」「なるほど!」とワクワクする気持ちが素敵だった。子どもたちが生き生きと表現する姿が印象的であった。

書かれたヒントをみんなで考える

成果と課題

社会の変化に伴い、子どもの遊びも変化し、豊かなあそび体験の機会が減少していることに危機感を覚え、継続的なあそびの会を実施した。大人が答えを用意したあそびではなく、あそびの中で子ども自身がおもしろさを選び取り、作り変えることのできるあそびを行うことで、子どもたちは、仲間とのやりとりの中で広がるあそびの面白さを十分体験できたと思う。意見を積み重ねて一つのものに達する達成感も体験できた。

これからの課題は、子どもに寄り添い表現あそびを展開する大人スタッフの養成にある。

落ち葉であそびをつくろう

団体の概要

表現あそび･表現活動プログラムを、子ども会、育成クラブ、公民館などで実施している。また、地域での継続的な表現活動による居場所づくりや、表現活動の視点から子どもと大人の関わりを考える大人対象の講座の開催、あそび･表現活動をテーマに研究会の開催等を行っている。

第6回夏休み小学生福祉体験講座

募集対象　小学4年生～6年生　**活動期間** 平成21年7月28日、8月4日、6日、7日（4日間）

実施団体名　イーハトーブ湘南
連絡先　〒253-0073　神奈川県茅ヶ崎市中島1187-2
TEL:0467-59-4107　FAX:0467-59-4107
E-mail:shiozaki@mxm.mesh.ne.jp　URL:www.geocities.jp/ihatov_shonann

活動の概要

小学生と、高齢者施設に入居され、日頃外部との関わりや外出する機会が少ない方たちとの交流を中心に構成した4日間の活動です。小学4年生から6年生10名を公募。熟練した講師、施設職員、ボランティアと連携し、8年間の活動で培った変化に富む講習内容となるよう工夫し、4日間の活動を実施しました。「公園への散歩やおやつバザールの開催」という最終日のイベントを、子どもたちの力で成し遂げることを目標にしています。

活動の内容

講座は4日間を8コマに分けて行いました。

〈1日目〉

エンカウンターで仲間の絆作り、施設見学と配食手伝い、お年寄りとチャンバラごっこを楽しむ遊び作り（写真①チャンバラで大盛り上がり）

〈2日目〉

車いすの使い方、見えない・見えにくいことを考えてみよう、仕事体験（写真②おやつ配りをしてお年寄りとおしゃべりタイム）

〈3日目〉

身体の弱い人のことを知る、お年寄りのアロマテラピー

〈4日目〉

公園へ散歩・子どもたちが移動介助して親水公園へ遊びに行った。心地よい風と川の流れ、セミ取りやシャボン玉吹きに興じた時間。（写真③公園の風景）おやつバザール・ゲーム、くじ引き。

「車いすの使い方」では、一人で動かす、互いに動かす、危険な扱い体験、砂利道や段差での使い方、短時間の介助など座学だけでなく、段階を追った楽しい実習体験を組み合わせることで、子どもたちの理解が深まるように工夫しました。また、障害に関する学習では視覚障害者体験を充実させました。アイマスクを使って食事をしたり、全盲や低視覚も体験することで、障害者の生きる力を知って自立と尊厳の意味を考えるきっかけ作りとなりました。

おやつの配膳を組み合わせた最後のイベント4日間の集大成、おやつバザールでは、参加者の誰もが楽しめるよう、体が不自由な方やお年寄りの動きにあわせたサポートができるようになりました。

①チャンバラで大盛り上がり

②おやつ配りをしてお年寄りとおしゃべりタイム

③公園の風景

成果と課題

普段接する機会が少ないお年寄りが暮らす施設の中でお年寄りの日常生活に触れながら行った奉仕活動体験は、子どもたちの心に達成感と楽しい思い出を残したようです。「福祉」の言葉の本当の意味について気づいた子どもたちにとって、確かな成長の証となったことが作文や振り返りの話し合いから知ることができました。

また、子どもたちを受け入れてくれたお年寄りたちは、子どもたちに「ありがとうよ」「気持ちいいヨ」「上手だね」などの言葉をかけてくれました。人の役に立ち褒められたことが、子どもたちの満足度をより高め、もっと関わりたいという気持ちに繋がったと感じています。そしてその子どもたちの気持ちがお年寄りたちの元気の源となっていると聞きました。

今後も、多くの子どもたちが興味をもって参加してくれるよう、理解ある講師やボランティアを確保したり、高校生や大学生になった経験者が指導者の一人として戻りやすい日程を確保すること、受け入れ施設を開拓することなどが課題です。

団体の概要

設立して10年、人、家庭、地域、社会をつなぐ『園芸福祉』の考えに共感。様々な人達と植物を育てる機会や場を提供して、共に楽しむ活動をしています。特に、複数の高齢者施設で植物を育てたり、季節を届ける園芸レクリエーションを行ったり、子ども達がお年よりや障害のある方を理解する福祉体験も企画しています。

2009 コミュニケーション研修会

募集対象　ジュニアリーダーから大人　**活動期間** 平成22年1月30日、31日

実施団体名　Goppoええぞなクラブ
連絡先　〒755-0241　山口県宇部市東岐波丸尾4138番地-11
TEL:0836-39-6336　FAX:0836-39-6336
E-mail:goppoeezona@yahoo.co.jp　URL:http://goppoeezona.ddo.jp/

活動の概要

地域活動を実施する上で一番大切なのはコミュニケーション能力です。しかし、最近その能力低下が問題と言われており、そのため色々な社会事件も起きています。そこで、子どもたちを指導する大人に対して構成的グループエンカウンター(SGE)とコーチングの手法を用いて、コミュニケーションの取り方や本質を理解するための研修を企画・実施しました。

今回の研修により、参加者は自分自身を振り返り、自己理解・他者理解を深めることができ、指導力の向上を図ることができました。その結果、子どもたちをより良く理解し、子どもたち自身が自発的に動く様な働きかけができる技術が身につけられました。

活動の内容

宇部市立東岐波中学校会議室で2日間のワークショップを開催しました。

講師:
林伸一
(山口大学 人文学部教授 上級日本教育カウンセラー
山口県教育カウンセラー協会 代表)
温品富美子
(日本コーチ協会山口支部 代表
(財)生涯学習開発財団 認定コーチ)

■1日目(参加者:男性7名、女性3名)

午前中、林先生よりSGEについて解説があり、その後エクササイズ体験をしました。スタートとして「私の病気自慢(自己紹介・自己開示)」を行い、一変に会場が和やかな雰囲気になりました。エクササイズの内容は、2人組になりお互い握手し、どちらかが「実はこう見えても～～の病気を持っている。○○です。」と自己紹介します。後の方が同じように「実はこう見えても～～の病気を持っている。○○です。」とお互いに自己紹介します。次々に相手を変え2分間でなるだけ多くの人と挨拶をしていきます。その後、わりばしウォーク(思いやりの心を育てよう)、今一番ほしいものは何ですか?(反復質問法)、いつ誰に何をしてもらいましたか?(反復内観法)等を体験しました。

午後は、温品講師から、コーチングの基礎フォローアップの講義を受けたことにより、信頼関係がやる気を引き出し、自発的行動につながる方法を学びました。

■2日目(参加者:男性7名、女性4名)

午前中、温品講師より効果的な質問で、モチベーションアップする方法を学びました。

午後は、林先生から、自己理解を深める為のエクササイズ、自分から見た私・他人から見た私「三面鏡」、ほめて、ほめられる体験(他者肯定・他尊感情)等の活動を行い2日間の研修会を終えました。

コーチングでのグループワーク

ジョハリの窓の講義

指導者が参加者にやってもらいたい動作を説明する難しさのワーク

成果と課題

今回の研修内容であるSGEとコーチングについては、地域で知る人はほとんどいない状況で、参加者を集めることに大変苦労しました。しかし、研修が終わると、参加した人からは、次回も参加したいと言う声が多く聞かれ好評でした。また、要項を見て「研修時間が長いのでどんな研修会かと思ったが、座学は少しで、ワークショップ中心だったので時間があっという間に過ぎた感じがした。」と言う感想も多くもらいました。

指導者や親として、子どもたちを育てていく為の研修として企画し、子どもゆめ基金の助成金を受け今回で3回目を実施することができました。また、地域の東岐波子ども連合会の役員が参加され、コーチングの研修内容に共感したことで、その後東岐波子ども連合会役員研修で実施、約70名の親に体験してもらうという波及効果がうまれました。

子どもたちを育て、支えるボランティア団体の役員の方や多くの方に体験してもらえると、その後の広がりがうまれていきます。今後も、地域が活発になるよう指導者の研修会を企画し、地域の方々に提供していきたいと考えています。

団体の概要

宇部市東岐波地区で文部科学省が推進している総合型地域スポーツクラブです。地域の人々のみの組織で活動拠点を確保し、日々色々なスポーツを実施しています。特にウォーキングでは、ただ歩くだけでなく道ばたに落ちているゴミを拾い集めて、道路が快適になり、気持ちも快適になる快適ウォークが注目を集めています。

海っ子山っ子交流タイム

募集対象　小学4、5、6年生の男女　**活動期間** 平成21年7月24日～26日（2泊3日）、8月7日～9日（2泊3日）

実施団体名　地域間交流実行委員会
連絡先　〒811-3308　福岡県福津市星ヶ丘14-3
TEL:0940-52-5675　FAX:0940-52-5675
E-mail:krskm8522@yahoo.co.jp

活動の概要

地域間交流実行委員会の企画「海っ子山っ子交流キャンプ」は、海浜地区の福津市の子ども達と山間地区の熊本県山鹿市菊鹿町の子ども達が、それぞれの自然の中で豊かな体験活動、様々な人との交流を行う活動です。

今まで体験したことのない海や川で泳いだり、夜空の星を眺めたり、たくさんの人と出会ったり、子ども達が夢を持つたくましい青少年へと成長することを目指し活動を行いました。

活動の内容

■山っ子（山鹿市）が福津市へ
2泊3日（7/24～7/26）

海の活動①～（1日目）
安全に活動をするためライフジャケット使い方、海の自然、緊急時についての指導を受ける。ビーチコーミング、遊泳（雨のため、時間短縮）
夜は、「音楽ランド」との交流（コンサートタイム、音あそび）

音楽ランド：知的障がいの子どもたちで構成された音楽バンド。聴く、感じる、奏でる音楽を活動の中に取り入れた音楽広場（福岡県筑紫野市を拠点に活動中）

海の活動②～（2日目）
雨天のため、室内にて「環境についての学習」を行う。
福津市にすむカブトガニ、産卵にやって来るウミガメの生態などを学ぶ。

海の活動③～（2日目）
九州造形短期大学の学生と砂像作りに挑戦

＊7月25日（土）夜から、福岡県は大雨洪水で地域でも大きな被害や断水などもあったが、事故もなく3日間の活動を終えた。
海っ子山っ子交流タイム～キャンプファイヤー

海の活動④～（3日目）
津屋崎漁港朝市見学、漁港にて水揚げされた魚などを見学し、その後海鮮鍋の朝食。
津屋崎千軒「なごみ」見学（福津市の山笠、福津市36景など）

大きな砂像つくりに挑戦！

■海っ子（福津市）が山鹿市へ
2泊3日（8/7～8/9）

山の活動①～竹食器作り（1日目）
（3日間使う食器やハシを作る）

山の活動②～川遊び（1日目）
夜は、天体観測（大型の双眼鏡で木星などを観察する。）

山の活動活動③～水力発電所（2日目）
（菊鹿発電所）見学
（ダムや電力、自然エネルギーについて、熊本県企業局のかたから話をしてもらい、発電所の内部を見学。）

山の活動活動④～川遊び（2日目）
そうめん流しで昼食、そして川で獲れたヤマメの串焼きをいただく。
海っ子山っ子交流タイム～キャンプファイヤー

待望の川遊び☆

海っ子、竹食器つくりを体験

山の活動活動⑤～（3日目）
「あんずの丘」押し花館にて、押し花ハガキを作成、「山鹿市立博物館」を見学。

成果と課題

実行委員会を立ち上げ計画から実施までに1年間を要した。福岡県と熊本県ということで、何度も両市を訪問し実施できた。九州内の全く違った環境に住む子どもたちが、これまでに味わったことのない様々な体験を行うことができたと同時に、自分の住む地域の環境をあらためて知ることができたことも大きな成果だった。

子どもの活動中はそれぞれ地元の方の協力で、大変豊かな活動へとつながった。子どもの体験を支える地域のあたたかさを強く感じた。今後も子どもを通じた両市の活性化にもつながることに期待したい。

課題としては、子どもの成長と共にこの活動が長く続くような体制づくりをすること。また、夏のキャンプだけではなく春夏秋冬を通し、環境の違いを学べるような活動を目指すことも大きな課題である。

海っ子山っ子交流タイム

団体の概要

福津市内、山鹿市内でそれぞれ健全な青少年育成をめざした活動を展開している団体で平成20年9月実行委員会を結成。体験活動の中に生活する自然環境の違いを理解し、交流・体験のために福津市・山鹿市内の役員7名で構成。それぞれの市で活動する指導スキルを活かし、実行委員会を結成した。
自然環境が異なる福岡県福津市と熊本県山鹿市の子どもたちが相互交流することにより、自然環境のすばらしさを認識し、交流の輪を広げることを目的にした活動をすすめる。

フリースペースふきのとう設立5周年記念
子どもサミット　―語りたい、私たちの不登校を通して思うこと―

募集対象　小学校5年生～高校生・一般(保護者含む)　**活動期間** 平成21年6月7日

実施団体名　特定非営利活動法人フリースペースふきのとう
連絡先　〒857-0874　長崎県佐世保市京坪町8-1
TEL:0956-25-6222　FAX:0956-76-8131
E-mail:f-porepoe@shirt.ocn.ne.jp　URL:http://www15.ocn.ne.jp/~furispe/

活動の概要

長崎県内の不登校は増え続けています。悩み苦しんでいる子どもたちに広く声をかけ、県内の子どもたちが交流できる場をつくりました。まず、自分を見つめることができた子どもが不登校を通じて感じた思いや友だちのこと、家族のこと、学校のことを赤裸々に語ってくれる「子どもサミット」を開催しました。また、それに参加する子どもたちが、友だちづくりができるように、子どもの広場「みんなのだべり場」を設けました。

活動の内容

■子どもの広場
「みんなのだべり場」

長崎県内から広く不登校の子どもたちに呼びかけ、不登校体験者の青年たちをリーダーとして交流会を開きました。やっと踏み出し参加をした子どもたちも、同じ気持ちを持つ仲間との交流は、ホッとできる居場所となりました。自己紹介から始まり、今の気持ちなど語りながら自分と合う仲間と出会う場を作りました。

■子どもサミット

苦しく辛かったあの日々でも、あの日々があったから今のわたしがいる。子どもたちが語る気持ちは参加した全ての人の胸を打ちました。「子どもサミット」に登場した子どもたちは中学生から高校生、青年の6人の子どもたちでした。

子どもの広場「みんなのだべり場」
友だちたくさんできました

活動実施のプログラム

9:00　アルカスSASEBO集合
10:00　子どもの広場
(みんなのだべり場)
10:30　子どもサミット出演者とコーディネーターとの打ち合わせ
11:30　昼食
12:00　受付
12:30　オープニング
子どもによる
『子どもの権利条約前文朗読』
うたごえフレンドによるコーラス
『あなたが夜明けをつげる子どもたち』『ビリーブ』
12:45　基調講演　高垣忠一郎さん
(立命館大学教授)
「不登校・ひきこもりをどう理解し、援助するか」
13:50　休憩(10分間)
14:00　子どもサミット コーディネーター
巻信幸さん(人形劇団かん主宰)
15:10　会場からの発言
15:40　終了
17:00　アルカスSASEBO退館

中学生による「子ども権利条約前文朗読」

成果と課題

発表した子どもたちは「自分と同じように悩み苦しんでいる子どもたちのために、勇気を出す」と話してくれました。その叫びは広く社会的な効果になっていったと思います。

子どもサミットは、遠く関西方面からも参加者がありました。なかなか当事者の生の声を聴くことが難しいのですが、この子どもたちが語ることで、不登校に対する誤解や偏見が無くなり、地域の理解者が増えていくことでしょう。

フリースペース(居場所)の必要性が言われる最近。それぞれの地域で、一つでも多くのフリースペースができることを期待しています。

6名のパネリスト「不登校のことを語りました」

団体の概要

1988年、不登校児を持つ親の会として設立し、22年を迎えようとしています。親の会から2004年4月に不登校児の居場所「フリースペースふきのとう」が生まれました。また、2010年2月にNPO法人を取得し、現在、不登校児の居場所(学童期)とひきこもりの居場所(青年期・成人期)を開設している。

子どもと本をつなぐ講座

募集対象　子どもの読書に関わる活動をしているボランティアや職員、子どもの読書に関心のある方
活動期間　平成21年9月21日～10月18日
実施団体名　しまね子どもの読書等推進の会
連絡先　〒690-0873　島根県松江市内中原町52番地（島根県立図書館内）
TEL:0852-22-5746　FAX:0852-22-5728
E-mail:fukuda-sayoko@pref.shimane.lg.jp（県事務局）

活動の概要

子どもの読書に関わる活動をしている人、これから始めたいと思っている人に対し、子どもの本の魅力やその手渡し方について、基本的な考え方や技術向上を学ぶ講座を開催した。

島根県は東西に広域であることを考慮し、県の中部に近い地域で総論講座、東部・西部・離島の3ケ所において実践講座を開催し、県全体の振興を図った。

活動の内容

なぜ子どもの成長におはなしや読書が欠かせないのか、読書ボランティアとしてどのように取り組むべきかなど、子どもの読書にかかわる活動の基盤となる考え方や技術を学ぶことを目的として、4回開催した。

①総論講座　小澤俊夫氏講演
「昔話が語る子どもの成長」(9月21日)

総論講座では昔話の持つ魅力やメッセージ、昔話の様式を知ることにより、子どもの読書活動に関わる基盤となるような考え方や取り組み方等を学ぶことを目的とし、口承文芸学者で、小澤昔ばなし研究所を設立した、小澤俊夫氏を講師に、93名の参加者が熱心に聴講した。

北畑博子氏「ブックトーク実践」

上田由美子氏「子どもと本とボランティアと」

②実践講座　上田由美子氏講演
「子どもと本とボランティアと」(10月4日)

児童文学者であり、大阪YWCA千里子ども図書室代表の上田由美子氏を講師に子どもの本の魅力やその手渡し方（読み聞かせを中心に）について、基本的な考え方を学んだ。読み聞かせから、ひとり読みに移行する時期の選書や手渡し方なども話され、21名の参加者が熱心に受講した。

③実践講座　北畑博子氏
「ブックトーク実践」(10月17日、18日)

島根県の東部、西部の2ケ所で開催した。東部では29名、西部では32名の参加者があった。講師の北畑氏の小学生向けと中学生向けのブックトークの実践を聴講した後、参加者も実践（事前に準備）して講師から批評をしてもらった。たくさんの実践例や、本の紹介を聞く機会となり、ブックトークに初めて出会った人も実践してみようという意欲につながった。

成果と課題

子どもゆめ基金の助成により、小澤俊夫氏をはじめとした講師を迎えて、読書ボランティアの養成講座を開催することができた。小澤氏の講演では、昔話を伝えることの大切さを学ぶことができた。よい再話の本を選び、昔の人の知恵のつまった昔話をぜひ子どもたちに伝えていってもらいたい。

上田氏、北畑氏の実践講座では、読書ボランティアの心構えや、選書の大切さ、ブックトークの技術について学んだ。たくさんの参加者が、子どもたちに本の魅力を伝えていってもらいたいと思う。

近年、学校で活躍する読書ボランティアが急増し、読書ボランティアとしての心構えや技術を磨くボランティア研修が求められている。今後も県内の子どもの読書活動を推進していくために、子どもゆめ基金の助成を受けながら、読書ボランティアの養成講座を継続していきたい。

団体の概要

この会は、子どもの読書環境及び読書活動に関心のある者の連携と資質の向上を図り、県内における子どもの読書活動等の推進に寄与することを目的として平成13年に設立された。県内10支部に分かれて活動を行っており、「しまねっと通信」での情報発信、研修会や支部持ち回りでの交流会の開催など県全域を対象にしたボランティアネットワークを構築している。

本をつくろう!

募集対象　小学校5年生～中学校3年生　**活動期間** 21年7月5日～22年3月21日

実施団体名　こどもアートスタジオプロジェクト
連絡先　〒430-0901　静岡県浜松市中区曳馬5丁目23-56-1
TEL:053-473-3358(青木宅)　FAX:053-473-3358(青木宅)
E-mail:art_studio_project@yahoo.co.jp　URL:http://www.kodomo-asp.com/

活動の概要

子どもたちはあふれる本の中から、本と出会えているでしょうか?自分で探そうとしているでしょうか?本はテレビやゲームよりも魅力的なものでしょうか?子どもと本を取り巻く環境を考えながら、自主的な本や読書への関わり方を促すために、本づくりをワークショップスタイルで進めました。本好きな多様な大人たちの興味を体験させることで、本が子どもたちの興味の導き手となったり、表現の場にもなりました。

活動の内容

■7月5日(日)

浜松市中央図書館へ行った活動では、多くの本に出会ったり、いつもと違う本棚へ目を向けてみようとしました。しかし変わらず児童書コーナーから出ようとはしませんでした。大人の本が置いてあるコーナーに行ってもいいのですが。

“読書空間 ひつじ日和さん”へ行った活動では、店主上原さんは、本が大好きでお店を出した方です。お店の本は皆さんに読んで欲しい本です。題名が透けて見えるパラフィン紙のカバーから、本を大切にして欲しい上原さんの気持ちが伝わります。図書館の気分とは違い、本を探し、じっくりと読んでいました。ここの並べ方は大人の本、子どもの本の区別がないので、学校や図書館でも自力でたどり着けない本に出会えました。

7.5ひつじ日和で読む

■8月8日(土)

好きな本を持ち寄りました。物語、絵本、図鑑、マンガなどがありました。本の企画や編集の仕事をしている遠藤綾さんと考えました。どうしてその本が好きなのですか?奥付にある編集、印刷所、発行人はどんな意味があるのでしょうか。バーコードはどうしてついているのでしょうか?本には読み手がいると気が付き始めます。内容を考えます。自分の考えを知るためにイメージマップ作りを教えてもらいました。

企画を考えます

■9月27日(日)

本好きなアーティスト　スサイタカコさんから「本の中に詰まっているもの」を教えてもらいました。文章、写真、絵などが色々なレイアウト、順番でページ付けられています。自分のアイディアをどのような形で本にするのか、考えます。

■10月25日(日)

本のアイディアを温めつつ、サウンドアーティストの前原本光さんとのワークショップです。見せてもらった本は装丁に羽を使っていたり、版画、骨董品とか初めて見る本ばかりでした。アートブックといいます。

■11月29日(日)・1月17日(日)・1月31日(日)・2月7日(日)

パソコンのある場所で原稿作りと入力作業です。孤独な作業が続きました。

■3月7日(日)

校正見本を見ながら訂正をします。想像していた本にならず、独り悩みました。

■3月21日(日)

完成。印刷されて届いた本を手にします。自分の本を伝えたい人を探す方法を考えました。どこへ置いたら読んでもらえるだろうか?経済や流通の疑問も出てきました。

成果と課題

本には作者や編集者の思いが詰まっています。活字を読むことと本を読むことは違いました。本を作ることで子どもたちは主体的に他の本に関わらざるを得ませんでした。図書館や書店で作者を感じて本を探すことができれば、興味のない本にも手が伸びるでしょう。本を大切に扱うようになるでしょう。

思春期の青少年が参加し易くするにはどうしたらよいか?プログラムの進め方、場所、人材、経費など検討の手を加えながら展開を図りたいと思います。子どもの読書活動を推進する活動として「本をつくろう!」が理解され、広く受け入れられることを願います。

本には何が載っている?

団体の概要

浜松市を中心に、アートを通して、子どもを育む子どもを取り巻く環境を整えていくことを目指し、子どもゆめ基金などの助成を得ながら、連続性のあるワークショップを企画実施しています。5年間の活動を通して、地域で子どもがアートに触れられる場づくりやアーティスト育成の取り組みの必要性を感じています。

平成21年度　読書活動推進地区公開講座

募集対象　幼児から小学生、保護者、読書推進関係者、その他　**活動期間**　平成21年7月11日、12日

実施団体名　長野県PTA親子読書推進の会
連絡先　〒380-0928　長野県長野市若里1-1-4　県立長野図書館内
TEL:026-228-4939　FAX:026-228-4930

活動の概要

読書活動推進地区公開講座は、近年、父親の子育てへの参加が増えているという流れの中で、子どもとのコミュニケーションツールとしての「お父さんの読み聞かせ」に注目し、実演を交えての講座を長野県下2会場で開催しました。

活動の内容

NPO法人ファザーリング・ジャパン代表の安藤哲也氏の講演会と、地元で活動している読み聞かせボランティアグループ等の実践発表による公開講座を実施しました。

安藤哲也氏は、「パパ's絵本プロジェクト」のメンバーとして絵本の読み聞かせライブを行うなど、父親の子育て・社会参加支援活動を展開されています。講演では、「絵本であそぼ!～お父さんも子育てを楽しんじゃおう～」をテーマに「ファザーリング・ジャパン」の活動の様子を紹介したDVDの上映や、父親の子育て・社会参加の一つの方法としての「お父さんの読み聞かせ」が紹介され、最後に子どもたちを前に集めて、安藤氏による絵本の読み聞かせライブが行われました。

安藤哲也氏講演会の様子

安藤哲也氏による絵本の読み聞かせ

また、地域で活動している東御市和小学校親子文庫、長野市PTA親子文庫、おとこぐみ（中野市）のメンバーによる、ピアノ伴奏つきの読み聞かせ、ブックトーク、お父さんの読み聞かせなどの実践発表も行われました。

成果と課題

家庭での読み聞かせは、親子のコミュニケーションを深めるうえで、たいへん有効な手段です。今回の講座を通して、普段なかなか子育てに参加できない父親も、子どもへの読み聞かせをすることで、絵本の世界をともに楽しみ、積極的に子育てにかかわり、親子のコミュニケーション力を育んでいけるということが参加者に実感されたと思います。

また、地域で活動する読み聞かせボランティアグループの実践発表は、同様の活動をしている他のグループから「参考になった」「新鮮だった」との感想も寄せられ、ボランティア関係者の連携にもつながっていくものと期待しています。

課題としては、「お父さんの読み聞かせ」という点に注目した講座であったにもかかわらず、父親の参加が少なかったということがあげられます。参加者からも「夫と一緒に聞きたかった」「せっかくのテーマなのに、父親の参加が少なくて残念」という感想が寄せられました。PR方法などをさらに工夫する必要があったと反省しています。

今後も子どもの読書活動推進のために、地域との連携を図りながら、時代のニーズにあった、より効果的な活動を進めてまいりたいと思います。

団体の概要

子どもの読書推進のために活動する地域の読書グループが連携・協力し、読書会、読み聞かせ、研修会、公開講座等を行い、自らの教養を高めるとともに、保育所、幼稚園、学校及び公共図書館等と連携して、長野県内の子どもの読書環境を守り発展させることを目的に活動しています。

第17回親子読書地域文庫全国交流集会

募集対象　子どもと読書に関心のある人。文庫・読み聞かせボランティア・おはなし会等で活動している人及び活動したいと思っている人
活動期間　平成21年10月3日、4日

実施団体名　親子読書地域文庫全国連絡会
連絡先　〒157-0066　東京都世田谷区成城1-9-1-407　広瀬 恒子(代表)
TEL:03-3416-2618　FAX:03-3416-2618

活動の概要

全国交流集会は、記念講演・交流会・分科会等で構成している。今年は「ひとりひとりの力をよせあって」をテーマに参加者が主体的に関われるような集会を心がけた。また今回は特に、国際的な視野をもって活動をさらに広げ深められるように、韓国で読書運動を続けている方を招いてお話を聞く機会をもち、韓国絵本展も併設した。

活動の内容

■1日目・・・
(1)基調報告→(2)韓国からの報告→(3)交流会

基調報告では、会代表の広瀬恒子が「子どもの本の現状と読書活動のこれから」について話したあと、今回の集会の特色でもある韓国のヌティナム図書館館長朴英淑さんの「誰もが夢みる権利を行使する社会のために―韓国・ヌティナム図書館からの報告―」に入った。「すべての子どもが幸せになる権利がある」「競争より交流を」と願って「私立図書館をつくる」というとてつもない計画を果敢に実行してきた朴さん。舞台後ろの映像で、随所に子どものための工夫がある図書館の内部やその中で生き生きと本を読み活動する子どもたちの様子を紹介しながらの話は参加者の感動を呼び、語り終わっても拍手が鳴りやまなかった。

交流会は、①出会いづくり②おはなし③平和について④韓国の仲間との交流の4つの部屋に分かれたが、どの部屋も話題提供者の話をきっかけに参加者みんなが語り交流し吸収し合う会になった。特に④は朴さんと一緒に来日した方々の話や『こいぬのうんち』の翻訳者ピョン・キジャさんの話もあり、国は違っても子どもを想う心は同じ、心温まる交流ができた。

講演する朴英淑さん

■2日目・・・
(4)分科会→(5)記念講演

分科会は、①今、子どもたちに伝えたい一冊 ②読書ボランティアの「今」と「これから」 ③長谷川摂子の作品世界 ④韓国絵本を楽しむの4分科会。今回の分科会はブックトークや読みきかせなど講師の実演から始まり話題が広がっていったところに特色があった。④では韓国絵本に造詣の深いきどのりこさんの読みきかせを交えた豊かなお話に始まり、展示会場で本を手に取りながら交流できて、あらためて韓国絵本の魅力を語り合う会となった。

児童文学作家長谷川摂子さんの記念講演「子どもたちにこの幸せを―やめられない絵本よみ」では、子どもたちに絵本を読み続けてきた40年を、読みきかせを交えながら語った。

独特の語り口は聴き手を魅了し「不安で自分を好きになれない子が他人に優しくなどできるはずがない。子どもに愛情を注ぐということは、人間としての自分に自信をもたせること」という幼児教育の原点ともいえる示唆に富んだ話は会の最後を締めくくるにふさわしいものだった。

★期間中「韓国絵本展示の部屋」を設置し、いつでもだれでも本を手にとって読めるようにした。

会場風景

韓国絵本展示会場で交流

成果と課題

外国の方を招くのは初めての試みで不安もあったが思った以上に充実した会になり、集会後の交流にもつながり、会として広がりと深まりのもてた集会であった。

今回は1日目が日本での知名度のない方であったせいか例年に比べて参加申し込みの出足が非常に遅く、改めて参加依頼状を発送するなどぎりぎりまで心配した。また一般参加者も例年に比べて少なかった。もう少し先の見通しを持って早くから計画的に図書館や公的機関にちらしを置いてもらう交渉をするとか、その他一般参加者への呼びかけの手だてを工夫することが今後の課題である。

分科会

団体の概要

親子読書地域文庫全国連絡会は「すべての子どもに読書のよろこびを」を共通の願いとして、子どもの読書に関心のある団体・個人が集い、1970年に発足しました。会の行事として全国交流集会・地域連絡会交流会・セミナー・講演会等を行い、それを通して相互に連絡提携し、子どもの文化向上に寄与しようと活動を続けています。

岡谷読書活動2009

募集対象　幼児から小中学生の保護者、一般、保育園保育士、学校図書館指導員　**活動期間** 平成21年6月20日～10月27日

実施団体名　おはなしだいすきポポーの木
連絡先　〒394-0028　長野県岡谷市本町4-1-39　市立岡谷図書館内
TEL:0266-22-2031　FAX:0266-24-3838

活動の概要

未来を担う大切な子どもたちに、読書の楽しさや喜びを感じ、様々な本と出会う機会を作ってあげたい。また、周りの大人たちにも子どもと読書の必要性や重要性に理解を深めてもらい、地域の人々が共に手をとり、読書を通じて心豊かな子どもを育んでいきたいとの願いから、読み聞かせ講座と、おはなしの森活動を実施している。

活動の内容

■読み聞かせ講座

1「子どもの本の世界 信州の児童文学」

講師 信州児童文学会 北沢彰利氏

児童文学の現状と、本との出会いが人生に大きな影響を与えることを学んだ。(全2回)

2「子どもの本と子どもの育ち 昔話が語る子どもの成長」

講師 口承文芸学者 小澤俊夫氏

単純明快に語られている昔話からに秘められたメッセージについての解説は大変分かりやすかった。

■おはなしの森活動

1「みんななかよし世界のおともだち」

市立図書館の絵本の原書を外国籍の子どもたちにも利用してもらうきっかけづくりとして、どの国の子どもたちもが楽しく交流してもらうために、市の国際交流協会の協力を得て実施した。チラシの裏面に原語での案内を入れたり、教会にもチラシの配布を依頼する等幅広く参加を呼び掛けた。講座では、絵本の原書を英語、タガログ語、ポルトガル語で読み聞かせたり、歌やゲームで体を動かしたりするなど、楽しく活動することができた。

2「やってみよう!工作科学実験 夏休み自由研究相談会」

諏訪教育会の「科学する心を育てる委員会」御協力を得て、「紙スプーンでブーメラン」「ペットボトルで空気砲」「ジャイロリングづくり」などの科学実験や科学工作により子どもたちが日常触れることの少ない新しい世界と出会う場を作ることができた。活動では、工作や科学実験、理科や自由研究の本の紹介も行い、子どもたちにとってはとても参考になったようだ。

3人形劇鑑賞

人形劇を通して本の世界へ入るきっかけづくりとして、のため県内の人形劇サークル「人形劇サークルくりたけ」による人形劇を鑑賞し、関連する本の紹介を行った。

成果と課題

子ども向けの事業では、子どもたちは、様々な情報や新しい文化に触れることにより、興味関心が高まったようである。また図書館利用のきっかけや交流する場にもつながっている。

最近読み聞かせ活動が盛んになり、読み聞かせのニーズが増えている。読み手のレベルアップや読み聞かせボランティアの底辺拡大をどのように図っていくか、グループ相互がどのように連携していくかなどを課題と考えている。

今後も他の関係団体とも連携し、子どもたちの読書を応援する活動を進めていきたい。

読み聞かせ講座(小澤俊夫氏)

みんななかよし世界のおともだち

科学実験

団体の概要

市立岡谷図書館を活動拠点にし、図書館や、保育園、小中学校、学童クラブや高齢者施設等で読み聞かせを実施しているボランティアグループや個人の連合体。グループ相互の連携や交流、情報交換、レベルアップを目的とした読み聞かせ講座や毎週土曜日には子どもたちへのおはなし会を実施している。

やまなし子どもと本をつなぐ活動　2009
図書館ボランティア朗読のつどい2009 −中学生・高校生と朗読を−

募集対象　中学生・高校生・大人　**活動期間** 平成21年7月5日

実施団体名　図書館ボランティアやまなし
連絡先　〒400-0331　山梨県南アルプス市下今井693　齊藤順子（代表）
TEL:055-283-3340　FAX:055-283-3340

活動の概要

平成21年度は、子どもたちの読書の推進と図書館ボランティアの質の向上を願って「やまなし子どもと本をつなぐ活動」（全4活動）を実施。

①交流と情報交換を通して学ぶ「交流研修会」
②外部講師を招き、レベルアップを図る「ステップアップ研修会」を開き、研修を積む一方、子どもたちの読書推進のために
③幼児・小学生対象の「図書館ボランティアのつどい」
④中学生・高校生対象の「図書館ボランティア朗読のつどい〜中学生・高校生と朗読を〜」

子どもの読書離れが騒がれるようになって久しい。中高生という多感なこの時期にこそ、文学の力、物語の力が子どもたちを支えてくれる。④.「図書館ボランティア朗読のつどい〜中学生・高校生と朗読を〜」は、中高生が上質の文学に耳から出会い、読書に目を向ける機会にしたいと、毎年、会場を変えながら開催している。中高生にもいっしょに出演してもらい、文学の楽しみ、朗読の楽しみを子どもたちと大人が共有する場でもある。

活動の内容

④.「図書館ボランティア朗読のつどい〜中学生・高校生と朗読を〜」の活動については、4月中旬ボランティアグループと中学生・高校生に対して向けの出演者（読み聞かせを行う者、グループ）募集を行い、5月末には出演者（20名）とプログラムを決定し、募集案内は、公共図書館、近隣の中学校、高校に配布し、89名（うち中高生46名）の参加を得ることができた。

出典本の展示

実施日時　平成21年7月5日（日）
午後1時30分〜3時40分
会　　場　山梨県南アルプス市櫛形
生涯学習センターあやめホール

プログラム

1. 田中冬二作「奈良田のほととぎす」「山郷」（ボランティアグループみどりの風）
2. 東海林さだお作「どぜうの丸かじり」（ボランティアグループねの会）
3. 星野富弘作「十字架の花」（ボランティアグループすずの会）
4. 紫式部作「源氏物語 若紫」
杉谷みどり作「告白源氏物語 第五話・若紫 紫上の乳母の告白」
（ボランティアグループ八ケ岳朗読サークルほがらか）
5. 赤川次郎作「きつね」（中学2年と1年姉妹・2名）
6. 星新一作「気前のいい家」（中学3年・1名）
7. さのようこ作「100万回生きたねこ」（中学3年・読書文芸美術部7名）
8. 三浦哲郎作「とんかつ」（講師・横内藤子氏）
9. 志摩阿木夫作「女人天上」（講師・清水章子氏）

午前中に準備とリハーサルを行った。会場は公共図書館を併設した複合施設で、図書館の職員にも協力をお願いし、朗読作品は中高生が聞くにふさわしい作品を選び、出典の本を受付の横にわかりやすいように展示した。

成果と課題

中学生が三組出演し、それぞれに真剣に朗読作品と向き合っていたことが非常に新鮮で好評だった。中学生が出演すると中学生の観客も増えることから、若者が文学作品に出会う良い機会となった。中高生によい文学に触れるきっかけを提供するため、今後も息長くこの催しを続けていきたい。また、大人が真摯に作品に向き合い、朗読に取り組む姿を若者に見せることもよい効果を生むと感じた。

中高生の出演のためには、テスト時期に重ならないよう日程の決定が非常に難しく苦労した。また、学校経由ではなく、ボランティアや図書館の協力で、直接、出演者を決めることができ交渉がすみやかにできた。今後は、中高生の観客の参加を促すため工夫が必要だと考えている。

中学生2名朗読

中学生7名朗読

団体の概要

山梨県内の公共図書館・公民館図書室で、読み聞かせ、朗読などの活動をしているボランティアグループのネットワーク。現在46グループが参加している。乳幼児から小学生・中学生・高校生、また成人の読書活動の推進をはかり、図書館の利用促進のために、互いに手をつなぎ、より質の高い活動を目指している。

おはなしたのしいでぇ！ in大阪

募集対象　小学生、幼児とその保護者、子どもの読書に関心を持つおとな、絵本の読みきかせやストーリーテリングなどの活動を行うボランティア
活動期間　平成21年11月14日、15日、平成22年2月20日
実施団体名　「おはなしたのしいでぇ！in大阪」実行委員会
連絡先　〒550-0014　大阪市西区北堀江4-3-2大阪市立中央図書館内
TEL:06-6539-3326　FAX:06-6539-3336
E-mail:

活動の概要

子どもとその保護者を対象とした「フェスティバル」、大人を対象とした「講演会」を実施。
「フェスティバル」では大阪市内各域で活動するグループが一堂に会し、図書館にて読みきかせやパネルシアターなどを同時進行で行った。「講演会」では、読みきかせやおはなし会を行っているボランティア等、子どもに読書の楽しみを伝えていくことに関心をもつ大人を対象とした講演会を行うとともに講師による子ども向けのおはなし会を開催した。

活動の内容

■「おはなしたのしいでぇ！in大阪フェスティバル」
平成21年11月14日(土)～15日(日)

2日間にわたり大阪市内の各区の図書館で活動する総勢56グループが一堂に会した。5つのブースをそれぞれ一枠30分ごとに区切り、読みきかせやパネルシアターなどのプログラムを同時進行で行い、おまつりの雰囲気の中で、子どもたちに興味のあるものをあれこれ自由に選んで参加してもらった。日頃読書に親しみのある子もない子も一緒に物語や絵本の世界を楽しんでもらうことを目的としており、2日間でのべ2,576名が参加した(うち子ども1,365名)。
また、会場には出演するグループの活動紹介や定例おはなし会日程を掲示するなど、催しを通じて興味を持った大人や子どもが、催し当日だけでなく今後も引き続いて物語や絵本の世界を楽しむきっかけづくりとした。

こんどはかぶは、ぬけるかな?

講演会の様子

■「おはなしたのしいでぇ！in大阪講演会」
平成22年2月20日(土)
午前:大人向け講演会
午後:子ども向けおはなし会

つくばの自宅にて文庫を開設し、長年子ども達に物語や読書の楽しみを伝えている藤井いづみさんを招いて午前はおとな向け講演会、午後は子ども向けおはなし会を開催した。午前は子ども達が耳から聞いて想像しながら物語を進めていくお話の手法や効果について、講師ご自身が積み重ねられた経験に基づいたお話を伺った。午後からは、講師によるおはなし会を開催し、情景が浮かんでくるようなおはなしの進め方に、物語を聞くことに慣れた子も初めての子も一緒に物語の世界を楽しむ催しとなった。

成果と課題

フェスティバルは、年々来場者が増えており、毎年楽しみに来てくださる子どもや保護者も多い。また、大阪市を中心とした各地域で活動するグループが集結することで、参加グループにとっても、グループ同士で情報交換をしたり子ども達に読書の楽しみを知ってもらおうとあれこれアイディアを出し合ったり、お互いのプログラムを見ることでステップアップにつながる年1回の貴重な機会となっている。

今後の課題としては、催しを継続することで、これまで培われてきたネットワークをより充実させ、大阪市域における子どもの読書をさらに活発にすることが挙げられる。

みんな釘付け

団体の概要

図書館で行った「こどもフェスティバル」に出演していた読みきかせを行う大阪市内外グループの有志により、平成16年11月に実行委員会結成。平成17年度より子どもゆめ基金の助成をうけ、子どもも大人も一緒に読書の楽しさを知ってもらうための催しや、絵本作家等による講演会を毎年開催している。

すすき野原のお月見読み聞かせ会

募集対象　小学校1年生～3年生の児童と保護者　**活動期間** 平成21年9月5日～9月6日（1泊2日）

実施団体名　特定非営利活動法人わくわくスタディひろば
連絡先　TEL:0745-82-7322　FAX:0745-82-7322

活動の概要

すすき野原の曽爾高原で中秋の名月と曽爾高原名物のすすきを楽しみながら、「月見」や「すすき」にちなんだお話や絵本などの読み聞かせを通して、豊かな情操を養い、日常を離れた場所で参加者同士の交流を深めることを目的としました。

活動の内容

奈良県とその周辺地域の小学生と家族35名が、国立曽爾少年自然の家に1泊2日の「すすき野原のお月見読み聞かせ会」に参加しました。

■1日目

14時に入所式を終え、地元に伝わる「大蛇伝説」の紙芝居を見てすすき野原でフォトテーリングをし、夕食後は「お月見読み聞かせ会」「ナイトハイク」を行いました。この活動の実施に当たっては「子どもたちと本と自然をどのように結び付けていくか」が、重要な課題でした。そこで、お話会の内容は月や星・すすき・森などを題材にしたお話や絵本を中心にプログラムを組み、その後、「お月見ナイトハイク」で、参加者は、本物の月や星に感激し、懐中電灯を使わずに歩ける満月の明るさに驚いていました。

■2日目

朝から「高原お話会」と「ブックトーク」、その後、「まつぼっくりを使った工作」、午後からは「不思議なマジックアートの工作」を楽しみ、14時の退所式で終了しました。

お話会とブックトークでは、テーマを「みんな生きているよ！この地球で！」とし、お話や絵本、科学絵本、写真絵本、図鑑を次々繋げて行く形で、大きな地球の中でちいさなちいさな虫達や他の生き物達が精一杯生きている様子を紹介していきました。「ブックトーク」の後は、自由に本を楽しめる読書タイムを充分に取りました。

本にどんどん近づいて見入る子ども達

まつぼっくり お湯に入れるとどうなるの？

どんなお話が始まるのかな？

お月見読み聞かせ会は「おさるとぼうし売り」のお話から始まりました

成果と課題

成果

子どもたちは、忙しい日常から離れ、テレビを見ることも無く、パソコンやゲームに触れることもなく、大自然の中で駆け回るいきいきとした姿を見せてくれました。親子で月や星をみる、一緒にお話や本を楽しむ、工作を親子で工夫する等の時間は、保護者にとっても貴重な体験になったようです。本で見た月や星をすぐに見る事ができ、木の実や虫にも身近に触れることが出来、その体験したばかりの自然物を本や図鑑でもう一度確かめることが出来た事は、自然に恵まれた曽爾高原だからこそより効果が上がったように思われます。

課題

「来年も参加したい」と言う多くの嬉しい声から、この活動を継続していきたいと考えています。そこで「子どもと本と自然を繋げていく」為の、より充実した楽しいお話会とブックトークを実施できるよう今後も頑張っていきたいです。

団体の概要

私たちは、「お話会」を通して子育て支援や子どもの読書活動支援を進めています。子育て中の親には心のゆとりを届け、子ども達には生きる喜びを感じとってもらえればと思っています。
また、高齢者の方々と子ども達との心と体のふれあう機会を提供し、「やさしい時間」を共有してもらいたいと願いながら活動しています。

海のフィールドワーク　指導者支援プログラム

利用対象　(1)自然体験活動に取り組む青少年教育施設、博物館(水族館)等の社会教育施設の体験学習指導系職員
(2)全国各地で海の自然体験活動に取り組む青少年教育団体、日本スノーケリング協会などの海の体験活動に関連する指導者団体、海のフィールドワークの指導者を育成する専門学校など、各種団体の体験学習の指導者の方々

活動期間　平成21年6月1日～平成22年3月31日

実施団体名　しまね海の自然体験活動教育研究会
連絡先　〒690-0872　島根県松江市西川津町1060　島根大学生涯学習教育研究センター内
TEL:0852-32-6329　FAX:0852-32-6098　E-mail:nakano@edu.shimane-u.ac.jp　URL:http://www.marine-fieldwork.com

教材の概要

日本は四方を海に囲まれた自然環境を有しているが、これまで自然体験としての海の活動は、水の事故を危惧する危険回避的意識が要因となり、青少年教育として積極的な取り組みが行われてきませんでした。しかし、海は、地球と生物の生命の営みを直接体感できる生きた教室であり、更に、美しい海は自然への畏敬の念を育み、子どもたちの心に多様な働きかけをします。

そこで、子どもたちが海の自然体験活動を安全に、かつ有意義に楽しめるよう必要な知識と技術の体系化を図り、その成果を多くの青少年教育指導者が共有でき、だれもが利用できる指導者支援ポータルサイトを構築することで、海辺を活用した自然体験活動の普及拡大に資することを目指しました。

本教材は、海の自然体験指導者支援プログラムとして、多くの青少年教育指導者に海の体験活動への様々な取組を促すとともに、海の自然体験活動の指導に必要となる知識や技術、また、安全対策や指導方法等の危機管理体制のノウハウ等に関する解説文や動画で構成された海の体験活動指導者向けの学習ポータルサイトとして構築しています。

海の自然に関心のある子どもたちが見ても、楽しく、興味が深まる活動事例の動画もポータルサイトのコンテンツとして導入しています。

教材の活用法

この教材は、海の自然体験活動を安全に、かつ有意義に楽しめるよう指導者に必要な知識と技術、また、指導に際しての心構えや指導方法について、6つのジャンルに分け、各サイトで学習できるようになっています。

◆「私たちのトライアル」
動画の示した活動事例の指導者の方々が指導上の考え方や心構えについてインタビュー形式で回答しています。

◆「フィールドワークプログラム」
海の体験活動ができる全国各地の公立施設とプログラムの詳細をマップと施設一覧表から選択でき、詳細を各施設のホームページで確認できます。

◆「指導者支援情報」
海の体験活動を行ううえで指導者が知っておくべき知識と技術を紹介しています。

◆「安全マニュアル」
「海の自然体験活動」を安全に実施するために不可欠な指導内容、指導方法、事故対処等をまとめています。

◆「動画で見る指導事例集」
1 初心者の親子を対象とした活動事例
2 地域の子ども会を対象とした団体での活動事例

◆「リンク集」
「海の自然体験活動」を推進する上で、さらに必要となる情報や知識を学べるよう関連する情報源を紹介しています。

教材の普及状況

本教材は、海の自然体験活動に関心のある指導者がいつでも学習することができるよう、全ての内容をポータルサイトで紹介しています。そのため、指導者の方々が、インターネットの検索でヒットしやすいようキーワードを登録すること、さらに活動事例の動画をユーチューブに登録することで、より多くの体験活動の指導者の検索にヒットするようにしています。また、動画のDVDでの配布も希望者には応えるようにしています。

今後は、指導内容を幼児・小学校低学年まで広げ、幅広い年代の子どもたちの体験活動に対応した指導者支援情報を提供できるよう取り組む予定です。

トップページ

動画で見る指導事例集

指導者のための指導支援情報

団体の概要

しまね海の自然体験活動教育研究会は、島根県を中心に豊かな海の自然環境フィールドを活用した「親子の自然体験活動」の普及を目指し、多様な事業を実施しています。実際に島根半島などでスキンダイビングの体験や磯の動植物の生態の観察を通して、海の自然に親しむなどの体験活動を実践するとともに、この自然体験活動を通して、環境教育プログラムの開発を行っています。

平成21年度助成活動で開発された教材一覧

教材の名称	HPアドレス	開発団体名（問合せ先）
親子遊びで心づくり体づくり ～伝承遊び・その3～	http://www7b.biglobe.ne.jp/~npo-gifu-rec/	特定非営利活動法人 岐阜県レクリエーション協会
草花は最高のあそび友だち ～音の出る草花を楽しもう～	http://kagaku.sakura.ne.jp/	科学するこころを育てる会
楽しく作って楽しく学ぶ ～生きる力を育む食育教室3～	http://foodapproach.com/	日本食文化環境研究所
遊びの中で学ぶ防災サバイバル ―君は4日間生き延びられるか―	http://www.scoutgifu.org/	日本ボーイスカウト岐阜県連盟
「生活リズム普及・改善教材 生活リズム 甲子園」	http://www.hayaoki.jp/	子どもの早起きをすすめる会
豊かな教養を身につける早わかり敬語教室	http://www.kimono-consul.org/	社団法人 全日本きものコンサルタント協会
忍者になって ホップ！ステップ！ジャンプ！	http://www.social-edu.com/	財団法人 全日本社会教育連合会
みんなでおどろう！ヨサポップ	http://www.zenshi.jp/	全国視聴覚教育連盟
院内課外活動教材ライブラリー	http://www.minkyo.or.jp/	財団法人 民間放送教育協会
ヒロシマをガイドと歩こう ～青少年が作ったヒロシマガイドブック～	http://koremana.net/	特定非営利活動法人 これからの学びネットワーク
落語で笑って、お江戸を体験！	http://www.javea.or.jp/	財団法人 日本視聴覚教育協会
「調べる・学ぶ・考える～世界自然遺産知床の自然と生きもの～」 環境学習ソフト	http://www.nodai.ac.jp/syokutonou/index.php	学校法人 東京農業大学「食と農」の博物館
子どもたちと学ぶ著作権	http://eled.jp/	特定非営利活動法人 eラーニング教育開発センター
ユビキタスおもしろエネルギー課外教室	http://www.gakujoken.or.jp/omoshiroE/index.html	科学講座研究会（CEMIの会）
きみもファーブル先生になろう！	http://www.zenshi.jp/center/	全国公立視聴覚センター連絡協議会
毎日、お家で野菜づくり体験	http://www.slow.gr.jp/	特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所
エコの達人アーカイブ ―エコライフで地球を守ろう―	http://npo-jcbda.jp/	特定非営利活動法人 日本デジタル・アーキビスト資格認定機構
パピルスのとびら ～紙はリサイクルの一番星～	http://www.ashitanokuni.jp/	特定非営利活動法人 あしたの国まちづくりの会
キッズのマナー道場 ～笑顔であいさつできるかな？～	http://www.ernet.jp/	特定非営利活動法人 教育改革ネット
海のフィールドワーク 指導者支援プログラム	http://marine-fieldwork.com/	しまね海の自然体験活動教育研究会
季節でかわる自然のふしぎ探検 ―みんなでできる楽しい理科教材の開発―	http://www.j-muse.or.jp/	財団法人 日本博物館協会
全国のe－手仕事図鑑を結ぶ手仕事学習データベース	http://www.gakujoken.or.jp/	財団法人 学習ソフトウェア情報研究センター
みんなのゆめ仕事 ～ボクたちの未来、わたしたちのゆめ～	http://www.npo-htc.or.jp/	特定非営利活動法人 人財育成支援センター
「防災劇を作ろう！」	http://www.fringe-tp.net/	特定非営利活動法人 フリンジシアタープロジェクト
特別支援教育用 「子ども学習カルテシステム～子どもの実態把握と指導～」	http://www.e-kokoro.ne.jp/ss/1/index.html	特別支援教育デザイン研究会
キッズ・ブロードキャスター〈子どもインターネット放送局〉 「しぶやの謎を解明せよ！」	http://kids-broadcast.com/	ICT利用普及研究会
受け継がれてきた500年の歴史と文化 ～神楽とわたしたちのくらし～	http://www.act.jpn.org/	特定非営利活動法人 いわて芸術文化技術共育研究所

日中韓子ども童話交流事業2009

事業の概要

日本・中国・韓国の子どもたちが一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知ってもらうとともに、お互いの文化を理解する機会を提供することにより、子どもの読書活動や体験活動の重要性について普及・啓発を図るため、「日中韓子ども童話交流事業実行委員会」を組織し、超党派の国会議員で構成される「子どもの未来を考える議員連盟」(会長:河村建夫)の参画を得て「日中韓子ども童話交流2009」を実施しました。

7回目を迎えた2009年は、小学校4年生から6年生の子どもたち97名(日本50名、中国22名、韓国25名)が集い、「大地」をテーマに、東京と北海道を会場として一週間のプログラムに取り組みました。また、今年は第1回(2002年)の交流会に参加した日中韓のOB・OG4人がオブザーバーとして加わりました。

事業の内容

東京の国立オリンピック記念青少年総合センターに参加者が集合し、3カ国混成の10グループに分かれ、オリエンテーションを皮切りに日中韓子ども童話交流事業が始まりました。オリエンテーションでは、河村建夫実行委員会事務総長からご挨拶をいただきました。

翌日は東京・上野の国立国会図書館国際子ども図書館で館内を見学。明治創設の建物には、世界中から児童書や関連資料が集められており、子どもたちは面白そうな絵本を手にとっていました。その後センターに戻った子どもたちは、ラベンダー色のTシャツを着て結団式に臨みました。

結団式

北海道・国立日高青少年自然の家では、先住民族のアイヌの人々と歌や踊りを通して交流しました。その後、獣医で作家の竹田津実さんによる、「北海道の大地と生き物」をテーマにしたお話を聞きました。また、北海道ならではの牧場体験や、白老アイヌ民族博物館の見学をし、日本の自然や歴史に触れました。

翌日から、グループごとに手作り絵本制作に取り組み、キツネ(日本)、パンダ(中国)、トラ(韓国)の3匹の各国を象徴する動物に思いを託して、テーマの「大地」や北海道の自然を題材とした10編の絵本ができ上がりました。

みんなで協力して絵本作り

絵本の発表会

グループ全員で協力して完成させた世界に一つだけの絵本を舞台で発表、各グループの夢とロマンあふれる友情物語など、独創的な作品が次々と披露され、感動の輪が広がりました。

解散式ではOB・OGがそれぞれ「私たちは、日本、中国、韓国の絆を深める架け橋になることができます」などと思いを発表した後、3カ国の子どもたちの代表6人が「日中韓は近くて遠い国という時代ではなくなりました。「北の大地」で得た素晴らしい体験を広く伝えていきます。」と宣言文を発表した後、別れを惜しみながら、再会を誓い各自帰途につきました。

世界に一つだけの絵本

3カ国の子どもたちが、日本5名、中国、韓国2～3名の10班に分かれてキツネ(日本)・パンダ(中国)・トラ(韓国)という、それぞれの国の代表となる主人公に自分たちの気持ちを託し、班ごとでオリジナルのストーリーを協同して考え、1人ひとりが1場面ずつ担当し、世界に一つだけのオリジナル絵本を完成させました。

友情を深め合った1冊の本は、とても大切な思い出として心に刻み込まれたことでしょう。

日 本

中 国

韓 国

「子どもゆめ基金」への寄附団体

平成21年度に
「子どもゆめ基金」へご寄附をいただいた方々をご紹介します。

自 平成21年4月1日　至 平成22年3月31日　（あいうえお順・敬称略）

アスカ王国ふれあいの旅委員会	財団法人 あすか青年育成国際財団
株式会社 伊藤園	友舞グループ 岩出 テル子
岐阜県オリエンテーリング協会	郷土愛媛と国際社会を考える会
こどもの城友の会 フリーマーケット実行委員会	特定非営利活動法人 子ども文化ステーション
特定非営利活動法人 さわやか出水女性の集い	西洋フード・コンパスグループ 株式会社
特定非営利活動法人 卓球交流会	東京コカ・コーラボトリング 株式会社
静岡大学 鳥山 優	特定非営利活動法人 日本子守唄協会
乗倉 寿明	株式会社 八洋
フードマインド・ジャパン 株式会社	松下 文治
株式会社 読売PR	株式会社 ライフ

子どもゆめ基金へのご協力を

子どもゆめ基金は、国と民間が協力して青少年教育に関する団体が行う子どもの体験活動や読書活動などの振興を図り、子どもの健全育成に寄与するものです。

このため、個人、企業からもご協力をいただき、基金の拡大を図り、幅広くその活動を支援することにしています。

つきましては、下記の募金口座にて受付しております。広く皆様のご理解とご支援を何卒お願い申し上げます。

振替口座

口座番号	00150-5-371382
口座名義	子どもゆめ基金

※振込に便利な振替払込書を中に綴じておりますので、ご利用ください。

銀行口座

銀 行 名	三菱東京UFJ銀行　　渋谷支店
口座番号	普通預金3025103
口座名義	子どもゆめ基金

子どもゆめ基金に対するご寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

子どもゆめ基金への支援　検 索

子どもゆめ基金ガイド2010　2010年9月発行

編　集　独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部
発　行　独立行政法人国立青少年教育振興機構
〒151-0052　東京都渋谷区代々木神園町3番1号
電　話　管理・普及課03-6407-7685　助成課：0120-579081
ＵＲＬ　http://yumekikin.niye.go.jp/
E-mail　yume@niye.go.jp

「子どもゆめ基金」は独立行政法人国立青少年教育振興機構の登録商標です。

教育施設一覧

当機構の全国28施設は、それぞれの地域の立地を活かした様々なプログラムを提供し、多くの青少年の体験活動を支援しています。

国立青少年交流の家

1. 国立大雪青少年交流の家（北海道美瑛町）
2. 国立岩手山青少年交流の家（岩手県滝沢村）
3. 国立磐梯青少年交流の家（福島県猪苗代町）
4. 国立赤城青少年交流の家（群馬県富士見村）
5. 国立能登青少年交流の家（石川県羽咋市）
6. 国立乗鞍青少年交流の家（岐阜県高山市）
7. 国立中央青少年交流の家（静岡県御殿場市）
8. 国立淡路青少年交流の家（兵庫県南あわじ市）
9. 国立三瓶青少年交流の家（島根県大田市）
10. 国立江田島青少年交流の家（広島県江田島市）
11. 国立大洲青少年交流の家（愛媛県大洲市）
12. 国立阿蘇青少年交流の家（熊本県阿蘇市）
13. 国立沖縄青少年交流の家（沖縄県渡嘉敷村）

国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

国立青少年自然の家

1. 国立日高青少年自然の家（北海道日高町）
2. 国立花山青少年自然の家（宮城県栗原市）
3. 国立那須甲子青少年自然の家（福島県西郷村）
4. 国立信州高遠青少年自然の家（長野県伊那市）
5. 国立妙高青少年自然の家（新潟県妙高市）
6. 国立立山青少年自然の家（富山県立山町）
7. 国立若狭湾青少年自然の家（福井県小浜市）
8. 国立曽爾青少年自然の家（奈良県曽爾村）
9. 国立吉備青少年自然の家（岡山県吉備中央町）
10. 国立山口徳地青少年自然の家（山口県山口市）
11. 国立室戸青少年自然の家（高知県室戸市）
12. 国立夜須高原青少年自然の家（福岡県筑前町）
13. 国立諫早青少年自然の家（長崎県諫早市）
14. 国立大隅青少年自然の家（鹿児島県鹿屋市）

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1　TEL 03-3467-7201（代表）　URL http://www.niye.go.jp